シアタープロジェクター

形名 XV-Z90S（エックス ブイ ゼット エス）

取扱説明書

このたびはシャープシアタープロジェクターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
ご使用の前に、「安全に正しくお使いいただくために」を必ずお読みください。‥‥‥**5**ページ

- 保証書は、必ず購入店名・購入日などの記入を確かめてお受け取りください。
- 製造番号は品質管理上重要なものですから、商品本体に表示されている製造番号と保証書に記載されている製造番号とが一致しているか、お確かめください。
- なお、この取扱説明書は、保証書とともに必ず保管してください。万一、使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、きっとお役に立ちます。

もくじ

はじめに

設置と接続のしかた

基本操作

調整・設定をする

付録

特　長

AVデジタルワイヤレス伝送機能

AVデジタルワイヤレス受信機能を内蔵し､同梱の送信機との組合わせによりプロジェクターとDVD等のビデオ機器とのケーブル接続をなくした｢ワイヤレス伝送｣を実現

プロジェクターの設置の自由度を高め、新しい使用スタイルを実現致します。

高コントラスト比/高色純度　高画質設計

1. DLP™方式採用
   - 表示方式に次世代の映画上映システムとしても注目を集めるDLP™方式採用
2. 黒の忠実な再現と高いコントラスト比
   - 映画フィルム並みの深い黒を再現し、暗部が引き締まった階調豊かな映像を表現
   - プライマリーカラーホイールや5倍速シーケンシャル方式など、映画鑑賞用に最適化した光学システムにより、高い色再現性と自然な映像描写を実現

快適なホームシアター環境を提供

1. 静音設計

   電源と光源それぞれに独立した冷却を施す、ツイン排気ダクト方式の採用により排気音を最適化しシアター視聴を妨げない静音性を実現致しました。

2. 様々な設置環境に対応する多彩な機能

   画面を上下に移動できる“レンズシフト機能”、画面の拡大／縮小が可能な“ズームレンズ”（1.2倍）、画面の投映サイズを電気的に補正する2Dキーストーン補正、および天吊対応など様々な設置環境にフレキシブルに対応します。

その他の特長

1. BSデジタルハイビジョン放送対応

   通常のビデオ信号はもちろん､DVDのコンポーネント信号､BSデジタルハイビジョン信号(525i／525p／750p／1125i)※など､最新の高画質映像ソースに対応します。

   ※ 本機は入力信号に対し、有効走査線数を表示します。

2. ユーザーガンマ調整機能

   ガンマ補正値を4モード(プリセット)内蔵し、映像ソースに応じて切換えが可能。

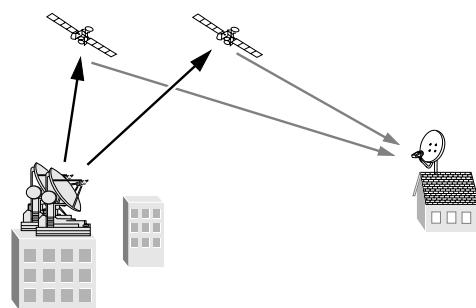
3. 色温度設定機能

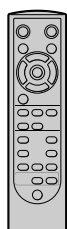
   5500Kから10500Kまで6つの色温度設定値から視聴ソースに応じたお好みの色温度が選択できます。

4. 使い勝手の良い調整メニュー／リモコン

   明るさ､コントラスト､色あいなど､多彩な画質の調整が視覚的に行える調整メニューを装備｡また､使用頻度の高い入力切換えがワンタッチでダイレクトに行える新設計のリモコン(バックライト付き)を採用しています。

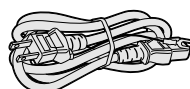
5. 画像調整値メモリー機能

   豊富な画像調整項目の調整値を記録し、映像ソースにあわせて最適なものをワンタッチで読み出すことができます。

付属品を確認する

付属品

リモコン

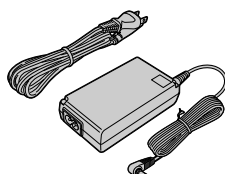
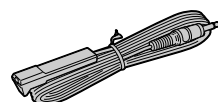
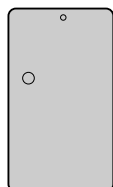
単3形乾電池（2本）

レンズキャップ（装着出荷）

レンズキャップ
ストラップ

電源コード（1.8m）

●取扱説明書（本書）

●保証書

ワイヤレス送信ユニット

ワイヤレス送信ユニット用
ACアダプター

ワイヤレス送信ユニット用
ビデオコントローラー（1.8m）

天吊り時用遮光板

別売品のご案内

ケーブル

3RCA/15ピンミニD-sub変換ケーブル（3m）	
	AN-C3CP
RS-232Cケーブル（10m）	AN-C10RS（クロス・メスーメスタイプ）
コンピュータ（RGB）ケーブル（10m）	AN-C10BM〈IBM-PC系・PC9821系・PC98NX系用〉
	AN-C10PC〈PC98系用（PC9821系・PC98NX系除く）〉

• コンピュータ側の接続端子の変更等により、そのままでは接続できない場合がありますので、コンピュータの仕様をご確認ください。変換コネクター（市販品）が必要な場合があります。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。
その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

警告 人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

注意 人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味

記号は、気をつける必要があることを表しています。

記号は、してはいけないことを表しています。

記号は、しなければならないことを表しています。

⚠警告

煙が出ている、変なにおいや音がするなど異常状態のときは電源プラグを抜く

● 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなることを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

● 画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて修理を販売店にご依頼ください。

キャビネットは絶対にあけない

● この機器のキャビネットは外さないでください。内部には電圧の高い部分がありますので感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

高圧注意

● サービスマン以外のかたはキャビネットをあけないでください。
内部には高電圧部分が数多くあります。
万一、さわると危険です。

● この機器を改造しないでください。
火災・感電の原因となります。

つづく

安全に正しくお使いいただくために（つづき）

⚠警告

表示された電源電圧で使用する

- 表示された電源電圧（交流100～240ボルト）以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

この機器を落としたときは

- この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

レンズをのぞかない

- 投映中にレンズをのぞかないでください。
  眼を傷める原因となります。
  特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

高温部には触れない

- 投映中は、排気孔、ランプ交換ユニットカバーやその周辺は高温になります。表面が十分冷えるまで触れないでください。

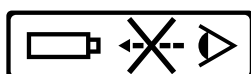
不安定な場所に置かない

- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてケガの原因となります。

雷が鳴り出したら電源プラグには触れない

- 感電の原因となります。

天井へ取り付けるときは

- この機器を天井へ設置する場合は、必ず販売店へご依頼ください。
  取り付けが不確実ですと、落下などにより感電・ケガの原因となります。

内部にものや水などを入れない

- この機器の開口部(通風孔など)から金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 異物や水がこの機器の内部に入った場合は、まず本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

上には水の入ったものや小さな金属物を絶対に置かない

- こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- 水が入ったり、ぬらしたりしないでください。火災・感電の原因となります。
  雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

⚠警告

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着した状態では使用しない

● ほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのままご使用すると、火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

● 火災・感電の原因となります。

電源コードを破損するようなことはしない

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本体の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードを敷物などで覆ってしまうと、気付かずに、重いものをのせてしまうことがあります。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

● 電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

湿気やほこりの少ない場所に置く

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

通風孔をふさがない

● この機器の通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
冷却ファン部〔排気側〕は、壁などから30cm以上はなして設置してください。

● 次のような使い方はしないでください。
この機器を横倒しや、レンズを下にむけて逆さまにする。押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。じゅうたんや布団の上に置く。テーブルクロスなどを掛ける。

重いものを置かない

● この機器の上に重いものを置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下してケガの原因となることがあります。

● この機器に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
倒れたり、こわれたりしてケガの原因となることがあります。

置台に据えつけるときは

● キャスター付き置台にこの機器を設置する場合にはキャスター止めをしてください。動いたり、倒れたりして、ケガの原因となることがあります。

つづく

安全に正しくお使いいただくために（つづき）

⚠注意

移動させるときは必ず接続線をはずす

● 移動させる場合は、機器本体の電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続線等外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

● 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

● ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

● 差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

● 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

指定以外の電池は使わない

● 機器で指定されていない電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破れつ、液もれにより、火災・ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない

● コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長時間ご使用にならないときは電源プラグを抜く

● 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

お手入れのときは電源プラグを抜く

● 安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
感電の原因となることがあります。

3年に一度は機器内部の清掃を販売店に依頼する

● 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部掃除費用については販売店などにご相談ください。

電池を入れるときは極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意する

● 電池を機器内に挿入する場合 極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し機器の表示どおり正しく入れてください。間違えますと電池の破れつ、液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

■ワイヤレス送/受信を行うときは

⚠警告

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない	航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しない
●電子機器が誤作動するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。 <ご注意頂きたい電子機器の例> 補聴器、ペースメーカー、その他医用電気機器、火災報知機、自動ドア、その他の自動制御機器など。 ペースメーカー、その他医用電気機器をご使用される方は、該当の各医用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。	●航空機器や医用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

使用上のご注意

設置するときは次の点にご注意ください

ホコリ、湿気の少ないところへ
■ 湿気やほこりの多い場所、油煙やタバコの煙の当たるような場所に置くと、レンズ・ミラー等の光学部品に汚れが付着し、映像がぼやけたり、暗く見にくくなります。

直射日光や、照明の光はさけてください
■ スクリーンに直接光があたると画面が白っぽくなり見にくくなります。明るい光が入る部屋ではカーテンを引くようにしてください。(できるだけ、暗い環境でお使いいただくことをおすすめします。)

本機を10°以上傾けないように設置してください
■ 設置範囲(水平に対する角度)±10°

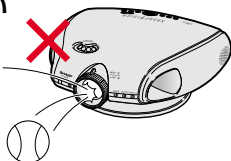
高温、低温の場所はさけてください
■ 使用温度範囲　5℃～35℃
■ 保存温度範囲－20℃～60℃

排気孔や吸気孔をふさがないように
■ 排気孔側に壁やモノがある場合は、30cm以上スキ間をあけて設置してください。
■ 吸気孔をふさがないよう設置してください。
■ 冷却ファンがふさがれると、保護機構が働き自動的にランプの電源が切れます。これは故障ではありません。電源プラグをコンセントから抜き、少なくとも10分間はそのままにしてください。その後もう一度電源コードをつなぎ電源を入れます。プロジェクターは正常な状態に戻ります。

温度

温度モニター機能
■ 設置状況や吸気孔の目づまり等によりプロジェクター内部の温度が高温になると、"温度"マークが画面の左下で点滅します。さらに温度が上昇し続けると、光源(ランプ)が消灯し、プロジェクターの温度モニターお知らせ表示(ランプ)が点滅し、90秒間の冷却期間の後、電源が切れます。詳細については**74**ページの「お知らせ表示について」をご参照ください。

お知らせ
■ 冷却ファンは内部温度を一定にしますが、その機能は自動制御されています。冷却ファンの音がプロジェクターの操作中に変化することがありますが、ファンの速さを変えているためで、故障ではありません。
■ 投映中および冷却ファンの動作中に電源プラグを抜かないでください。冷却ファンも同時に止まるため、温度上昇により故障の原因となります。

衝撃を与えないでください
■ 本機のレンズには特にご注意いただき、表面を打ったり傷をつけたりしないようご注意ください。

目をときどき休めてください
■ 連続して長い時間画面を見ていると、目を疲れさせます。ときどき目を休めてください。

持ち運びのご注意
■ 持ち運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。故障の原因となります。レンズには特にご注意ください。また、移動させる場合は、かならず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線をはずしたことを確認の上行ってください。

接続機器について
■ プロジェクターにコンピュータやAV機器を接続するときは、プロジェクターおよび接続する各機器の電源を必ず切ってから接続してください。
■ 接続のしかたは、プロジェクターおよび接続する各機器の取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレス送信ユニットをご使用になるときは

本機（ワイヤレス送信ユニットおよびプロジェクター）は盗聴防止スクランブル機能を搭載していますが、傍受※にご注意ください。本機は電波を使用している関係上、第３者が故意に傍受するケースも考えられます。機密を要する重要な通信や、人命に関わる通信には使用しないでください。

※傍受（ぼうじゅ）とは、無線通信の内容を第３者が別の受信機で故意または偶然に受信することです。

■このワイヤレス送信ユニットを使用できるのは日本国内だけです。（This system designed for use in Japan only and can not be used in any other country.）

電波に関するご注意

■本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は、日本国内のみ使用できます。

■ 次の場所では、本機を使用しないでください。ノイズがでたり、送信／受信ができなくなる場合があります。

・本機と同じ周波数帯（2.4GHz）を利用する無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジ等の機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります）

・ラジオからはなしてお使いください。（ノイズが乗る場合があります）

■ 本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。

・分解／改造すること。

・本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

（1）「2.4」:GHz帯を使用する無線設備を表します。
（2）「DS」:変調方式を表します。
（3）「4」:想定される与干渉距離を表します。（約40m）

■本機の使用周波数帯域では、本機と同じ周波数帯（2.4GHz）を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線 LAN、また電子レンジ等の機器の他、工場、製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する）及び、特定小電力無線局が運用されています。

・本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、及び特定小電力無線局が運用されてないことを確認してください。

・万一、本機から移動体識別用の構内局に対して電波障害の事例が発生した場合、速やかにその場での、本機の使用を中断してください。

使用範囲について

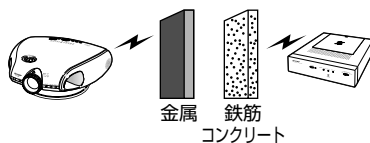
■ご家庭内でのご使用に限ります。
（通信の環境により伝送距離が短くなることがあります）

■次のような場合は、電波状態が悪くなったり、電波が届かなくなることで映像・音声が途切れたり（映像・音声が停止する）、ブロック状のノイズが出ます。

・マンションなど鉄筋コンクリートの建物内や構造に金属が使われている住宅など。

・大型の金属製家具の近くなど。

・人混みの中や、建物、障害物の近くなど。

・本機と同じ周波数（2.4GHz）を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジ等の機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。

電波の反射について

・受信機に届く電波は、送信機から直接届く電波（直接波）と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波（反射波）があります。これにより、電波が障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、映像がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、受信機の場所を少し動かしてみてください。送信機と受信機間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で映像・音声が乱れたり、途切れたりすることがあります。

電源に関するご注意

■指定以外の AC アダプターは使わないでください。指定以外の AC アダプターを使用した場合は、故障の原因となります。AC アダプターは、必ず専用品をお使いください。

お知らせ

お客さま、または第３者使用によるこの製品の誤った使用、使用中に生じた故障、その他の不具合、この製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

つづく

使用上のご注意(つづき)

プロジェクターを海外でご使用になるときは

■お使いになる国や地域によって、電源電圧やプラグの形状が異なります。海外でご使用になるときは、その国にあった電源コード(別売品)をご使用ください。

ランプ交換に関しての注意

■「ランプについて」(75ページ)もご覧ください。

■破棄の方法について
このプロジェクターに使用している高輝度放電ランプ(HID)ランプは、微量な水銀を含有しています。これらの含有物は、環境考慮の観点から法的に規制されている場合があります。廃棄やリサイクルについては、関連法規およびお住まいの地域の条例などに従って処理してください。

ランプ交換ユニットに関しての注意

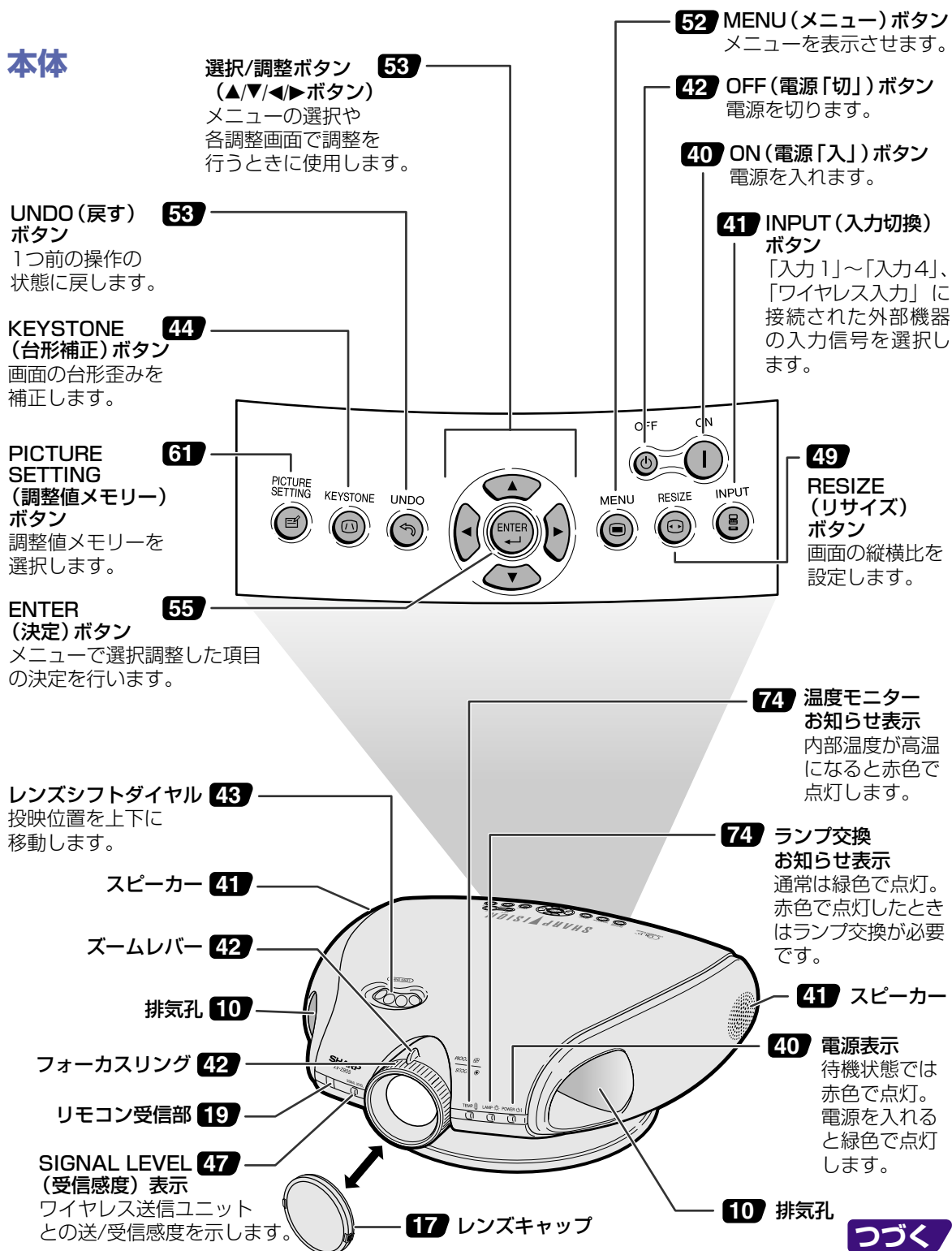
■ランプが破裂するとガラス破片で怪我をするおそれがあります。ランプが破裂した場合には、お近くの販売店ご連絡ください。

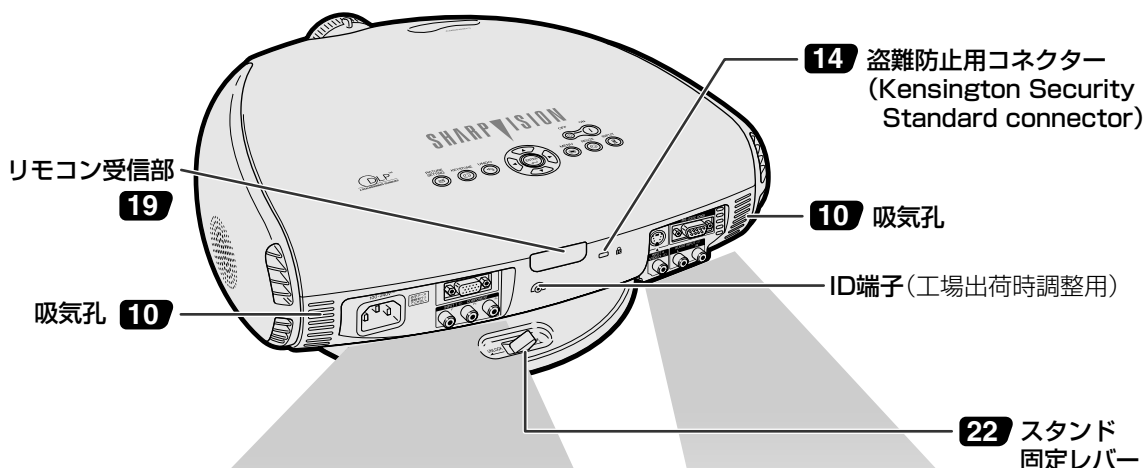
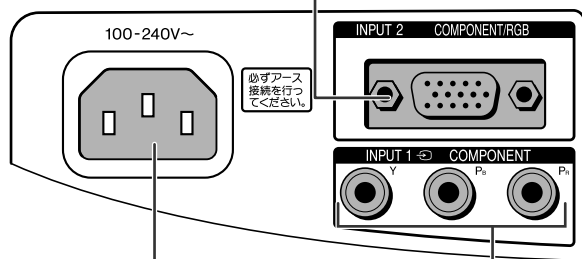
- この製品は、クラスA情報技術装置です。住宅環境で使用する場合は、電波障害を発生させる恐れがあります。
  その際、この製品の利用者は適切な手段を講ずることが必要とされることがあります。

- DLP™ (Digital Light Processing)、DMD™ (Digital Micromirror Device)は米国テキサスインスツルメンツ社の商標です。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国々における登録商標です。
- PS/2、PC/ATは米国IBM社の登録商標です。
- Macintoshはアップルコンピュータ・インクの米国および、その他の国における登録商標です。
  その他製品名等の固有名詞は各社の商標または登録商標です。
- 本製品のICチップの中には、米国Texas Instruments社の営業秘密が含まれているICチップがありますので、その内容をコピー、改変、適応、翻訳、配布、リバースエンジニアリング、リバースアッセンブリングもしくはディスアセンブリングをすることは禁じられております。

各部のなまえ

■ は参照ページを示しています。
製品改良のため、外観の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

本体

つづく

各部のなまえ（つづき）

■ は参照ページを示しています。

28
AC電源ソケット
付属の電源コードをつなぎます。

29
INPUT（入力）1端子
ピンジャック（3連）タイプのコンポーネント（色差）入力端子です。

31
INPUT（入力）4端子
ビデオ機器などを接続するときに使用します。

29
AUDIO INPUT（音声入力）端子
入力1/入力2/入力3/入力4共用の音声入力端子です。

盗難防止用コネクターについて
- 市販の盗難防止用ケーブル（Kensington社製）などを接続することができます。

■盗難防止用コネクターは、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
日本国内総販売代理店の連絡先は、以下のとおりです。
日本ポラロイド株式会社　電子映像グループ
〒105-8456　東京都港区虎ノ門3丁目2番2号　第30森ビル
TEL 03-3438-8879　FAX 03-5473-1630

ワイヤレス送信ユニット

IR MOUSE 34
(ビデオコントローラー)
端子

S映像入力端子 34

ID端子
(工場出荷時調整用)

音声入力端子 34

コンポーネント 34
入力端子

48 MODE(画質調整)切換ツマミ

48 TRANSMISSION CHANNEL
(通信チャンネル)切換ツマミ

33 POWER INPUT端子

34 映像／音声入力端子

35 アナログ音声出力
(AUDIO DELAY)端子

35 DIGITAL AUDIO INPUT
(デジタル音声)端子

IDボタン(工場出荷時調整用)
押さないようにしてください。

35 DIGITAL AUDIO OUTPUT
(AUDIO DELAY)端子

34 映像／音声出力端子

コンポーネント 34
出力端子

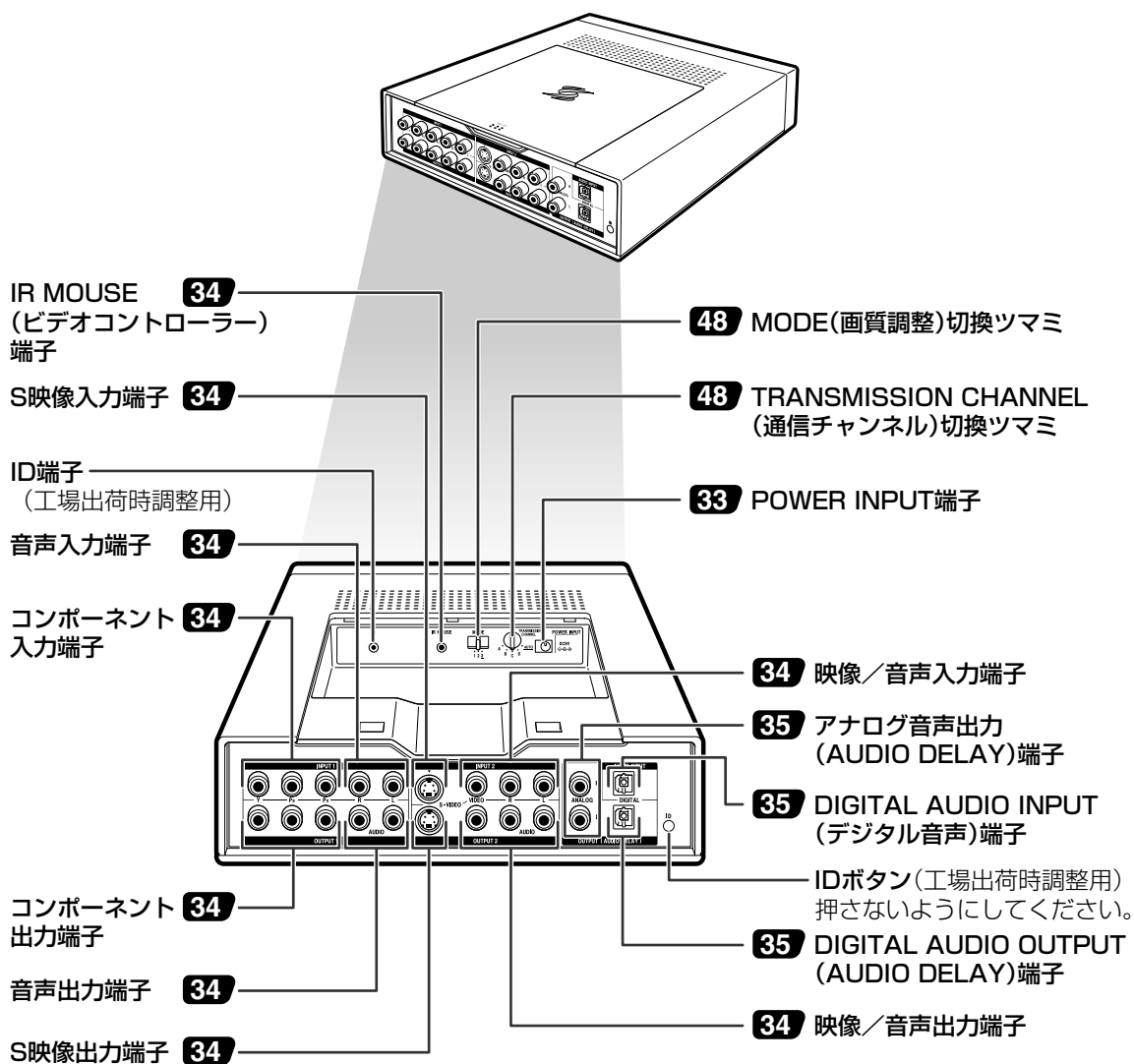
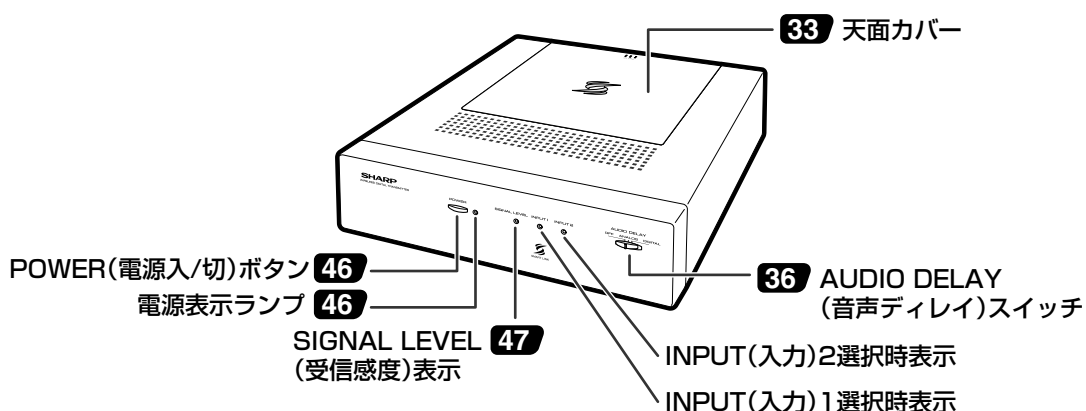
音声出力端子 34

S映像出力端子 34

つづく

各部のなまえ（つづき）

リモコン

リモコン信号発信部

OFF（電源「切」）ボタン 42
電源を切ります。

KEYSTONE（台形補正）ボタン 44
画面の台形歪みを補正します。

ENTER（決定）ボタン 55
メニューで選択調整した項目の決定を行います。

UNDO（戻す）ボタン 53
１つ前の操作の状態に戻します。

INPUT（入力）1ボタン 41
「入力１」に接続された外部機器の入力信号を選択します。

INPUT（入力）2ボタン 41
「入力２」に接続された外部機器の入力信号を選択します。

INPUT（入力）4ボタン 41
「入力４」に接続された外部機器の入力信号を選択します。

AUTO SYNC（自動同期）ボタン 65
コンピュータの画面を自動調整します。

RGB/COMP.（RGB/コンポーネント信号切換）ボタン 68
RGB 信号とコンポーネント（色差）信号を切り換えます。

VOLUME（音量）ボタン 41
スピーカーからの音量を調整します。

LIGHT（バックライト）ボタン 20
このボタンを押すと各ボタンが発光します。

ON（電源「入」）ボタン 40
電源を入れます。

MENU（メニュー）ボタン 52
メニューを表示させます。

選択/調整ボタン（▲/▼/◀/▶ボタン） 53
メニューの選択や各調整画面で調整を行うときに使用します。

INPUT（入力）3ボタン 41
「入力３」に接続された外部機器の入力信号を選択します。

WIRELESS INPUT（ワイヤレス入力）ボタン 41
ワイヤレス送信ユニットの入力信号を選択します。

RESIZE（リサイズ）ボタン 49
画面の縦横比を設定します。

PICTURE SETTING（調整値メモリー）ボタン 61
調整値メモリーを選択します。

MUTE（消音）ボタン 41
スピーカーの音を一時的に消します。

WIRELESS TRANSMITTER 46
（ワイヤレス送信ユニット操作）

INPUT（入力）1ボタン
ワイヤレス送信ユニットの「入力1」を選択します。

INPUT（入力）2ボタン
ワイヤレス送信ユニットの「入力2」を選択します。

レンズキャップの使いかた

レンズキャップを取り付ける・取り外す

1 レンズキャップの凸部を押しながら取り付ける・取り外す

レンズキャップストラップの取り付けかた

図のように、レンズキャップにレンズキャップストラップを通してから(①)、本体裏側にレンズキャップストラップを通してください(②)。

リモコンの使いかた

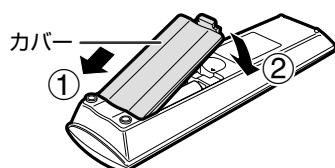
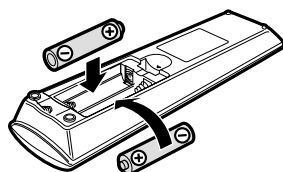
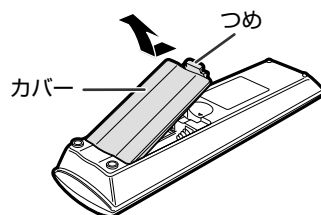
乾電池を入れる

リモコンをお使いになる前に、付属の乾電池〔単3形2本〕をリモコンに入れてください。

1 カバーのつめを押して矢印の方向に開ける

2 付属の乾電池を入れる

• プラス⊕とマイナス⊖を、表示のとおり正しく入れてください。

3 カバーの突起をリモコンの穴に差し込み（①）、矢印の方向に閉める（②）

リモコンの使用上のご注意

衝撃を与えたり、水にぬらしたり、温度の高いところには置かないでください。

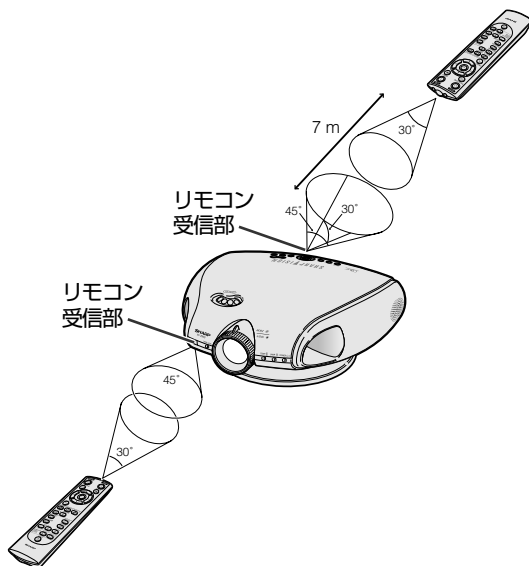
乾電池は誤った使いかたをしますと液もれや破裂することがありますので、次の点について特にご注意ください。

⚠注意

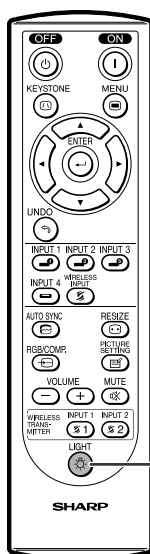
- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖を、表示のとおり正しく入れてください。
- 乾電池は種類によって特性が異なりますので、種類の違う乾電池は混ぜて使用しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
  新しい乾電池の寿命を短くしたり、また、古い乾電池から液がもれる恐れがあります。
- 乾電池が使えなくなったら、液がもれて故障の原因となる恐れもありますのですぐ取り出してください。
  また、もれた液に触れると肌が荒れることがありますので、布でふき取るなど十分注意してください。

- 付属の乾電池は、保管状態により短期間で消耗することがありますので、早めに新しい乾電池と交換してください。
- 長時間使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出してください。

リモコンの使用範囲

リモコンの使用範囲は下図のとおりです。

- リモコンをスクリーンに反射させて、リモコン信号を受信することもできますが、信号が届く距離はスクリーンの材質によって異なります。

リモコンの使いかた（つづき）

暗いところでリモコンを使うとき

バックライトボタンを押します

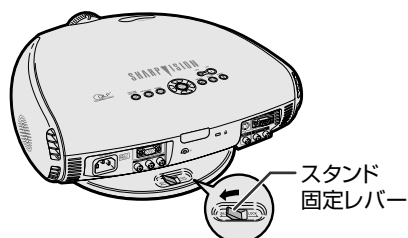
バックライトボタンを押すと、約5秒間、各ボタンが光ります。
ボタンが光っている間にもう一度バックライトボタンを押すと、
ライトは消えます。

設置と接続のしかた

設置のしかた

回転スタンドの使いかた

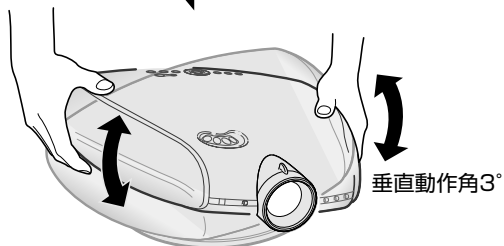
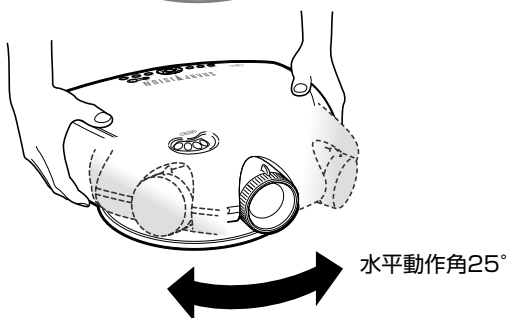
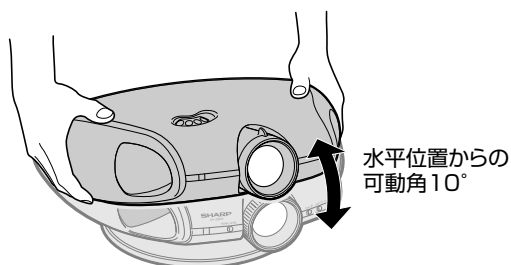
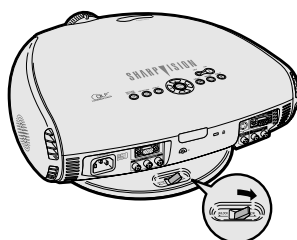
回転スタンドを使って映像の投映角度や方向を調整することができます。

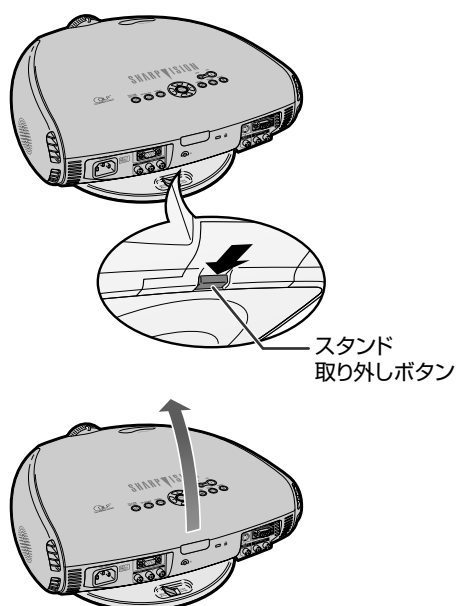
1 **スタンド固定レバーをUNLOCK（解除）側に動かし、スタンドの固定を解除する**

2 **プロジェクターを上下左右に動かし、映像の投映角度や方向を調整する**

メモ

• プロジェクターの高さや方向を調整すると、プロジェクターとスクリーンの位置関係によっては映像に歪みが生じます。歪みを補正するキーストーン補正については、**44**ページをご覧ください。

お知らせ

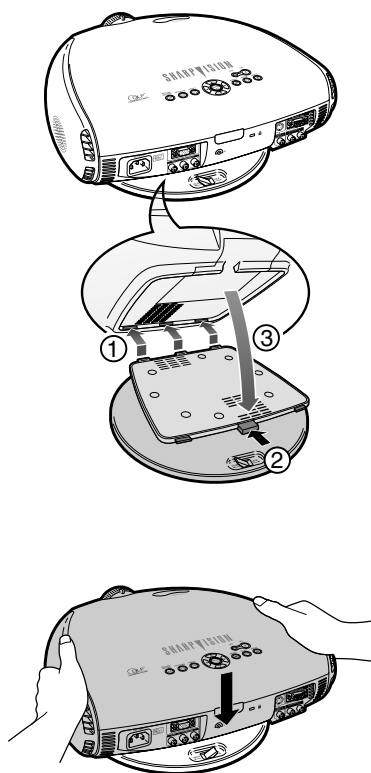
• プロジェクターを動かすとき、レンズを持たないでください。
• プロジェクターを動かすとき、プロジェクターと回転スタンドの間に指を挟まないように注意してください。

3 **スタンド固定レバーをLOCK（固定）側に動かし、スタンドを固定する**

回転スタンドを取り外す

1 **本体の後ろにあるスタンド取り外しボタンを押したまま、本体を持ち上げて、回転スタンドから取り外す**

回転スタンドを取り付ける

1 **スタンドの突起を本体前面下部の穴に差し込む（①）**

2 **スタンド取り外しボタンを押しながら（②）、本体を下ろし、スタンドに取り付ける（③）**

3 **取付後、本体とスタンドを両側からしっかりおさえてロックされていることを確認する**

つづく

設置のしかた（つづき）

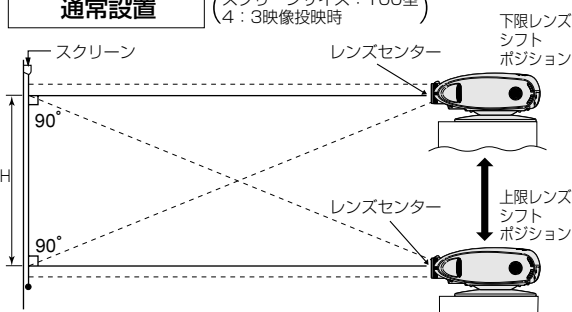
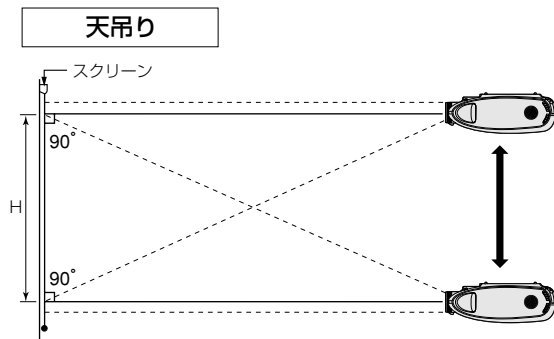
スクリーンを設置する

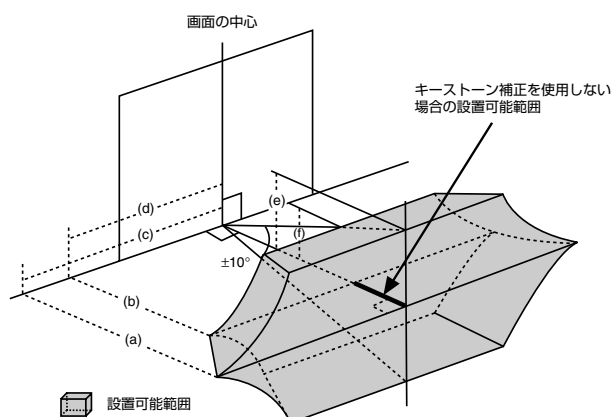
プロジェクターを水平な状態にして、スクリーンに対して垂直に設置してください。この状態で最良の映像が得られます。

メモ

- プロジェクターのレンズがスクリーンの中心にくるように設置してください。レンズの中心を通る水平ラインが、スクリーンに対して垂直になっていないと、映像が歪んでしまい、見にくくなります。
- スクリーンを直射日光や照明の光のあたる場所に設置しないでください。スクリーンに直接あたる光で画面が白っぽくなり、見にくくなります。明るい光が入る部屋では、カーテンを引いて、照明を暗くしてください。
- このプロジェクターは偏光スクリーン対応ではありません。

基本的な設置（前面からの投映）

投映したい画面サイズに合わせて、スクリーンから必要な距離をとってプロジェクターを設置してください。（次ページ表参照）

画面サイズと投映距離

・下記のイラストと表を参考に、スクリーンサイズと入力信号の種類に応じてプロジェクターの設置場所を決めてください。
・キーストーン補正機能の説明と設置のしかたについては、44～45ページをご参照ください。

(a) 最長投映距離
(b) 最短投映距離
(c) 投映距離が最長のときの水平方向の設置可能範囲
(d) 投映距離が最短のときの水平方向の設置可能範囲
(e) 投映距離が最長のときの垂直方向の設置可能範囲
(f) 投映距離が最短のときの垂直方向の設置可能範囲

メモ

- レンズシフトが一番上以外の位置にあるときは映像の縦横比が少しずれます。
- HキーストーンとVキーストーンを同時に調整すると映像の縦横比が少しずれます。
- メニュー等の操作表示にはキーストーン補正が働きません。
- キーストーン補正を行うと画像の解像度が若干落ちます。
- 左のイラストを基準の位置としてレンズシフト機能(43ページ)により、映像を一画面分、下方向に移動することができます。
- 下記の近似式には、±3%の誤差があります。

スクリーン(4：3)

スクリーンサイズ (4:3)	投映距離とキーストーン補正									
	最長投映距離					最短投映距離				
対角(型)	投映距離 (a)	水平方向の設置可能範囲(c) 映像信号、S映像信号 525i/P, 1125i	750P	RGB	垂直方向の設置可能範囲 (e)	投映距離 (b)	水平方向の設置可能範囲(d) 映像信号、S映像信号 525i/P, 1125i	750P	RGB	垂直方向の設置可能範囲 (f)
200	–	–	–	–	–	6.2 m	1.5 m	1.1 m	0.8 m	1.4 m
150	5.6 m	1.7 m	1.2 m	0.9 m	1.2 m	4.6 m	1.1 m	0.8 m	0.6 m	1.0 m
100	3.7 m	1.1 m	0.8 m	0.6 m	0.8 m	3.1 m	0.7 m	0.5 m	0.4 m	0.7 m
80	3.0 m	0.9 m	0.6 m	0.5 m	0.6 m	2.5 m	0.6 m	0.4 m	0.3 m	0.5 m
70	2.6 m	0.7 m	0.5 m	0.4 m	0.5 m	2.2 m	0.5 m	0.3 m	0.3 m	0.4 m
60	2.2 m	0.6 m	0.4 m	0.3 m	0.5 m	1.8 m	0.4 m	0.3 m	0.2 m	0.4 m
40	1.5 m	0.4 m	0.3 m	0.2 m	0.3 m	1.2 m	0.3 m	0.2 m	0.1 m	0.2 m

スクリーンサイズと投映距離の近似式

(a) = (0.03765x − 0.03286)　　x = スクリーンサイズ(型)
(b) = (0.031182x − 0.033542)

スクリーン(16：9)

スクリーンサイズ (16:9)	投映距離とキーストーン補正									
	最長投映距離					最短投映距離				
対角(型)	投映距離 (a)	水平方向の設置可能範囲(c) 映像信号、S映像信号 525i/P, 1125i	750P	RGB	垂直方向の設置可能範囲 (e)	投映距離 (b)	水平方向の設置可能範囲(d) 映像信号、S映像信号 525i/P, 1125i	750P	RGB	垂直方向の設置可能範囲 (f)
200	8.2 m	2.5 m	1.8 m	1.4 m	1.8 m	6.8 m	1.6 m	1.2 m	0.9 m	1.5 m
150	6.1 m	1.8 m	1.3 m	1.0 m	1.4 m	5.1 m	1.2 m	0.9 m	0.7 m	1.1 m
130	5.3 m	1.6 m	1.1 m	0.9 m	1.2 m	4.4 m	1.0 m	0.7 m	0.6 m	1.0 m
110	4.5 m	1.3 m	0.9 m	0.7 m	1.0 m	3.7 m	0.9 m	0.6 m	0.5 m	0.8 m
100	4.1 m	1.2 m	0.9 m	0.7 m	0.9 m	3.4 m	0.8 m	0.6 m	0.4 m	0.7 m
90	3.7 m	1.1 m	0.8 m	0.6 m	0.8 m	3.0 m	0.7 m	0.5 m	0.4 m	0.6 m
80	3.2 m	0.9 m	0.7 m	0.5 m	0.7 m	2.7 m	0.6 m	0.4 m	0.3 m	0.6 m
70	2.8 m	0.8 m	0.6 m	0.4 m	0.6 m	2.3 m	0.5 m	0.4 m	0.3 m	0.5 m
60	2.4 m	0.7 m	0.5 m	0.4 m	0.5 m	2.0 m	0.4 m	0.3 m	0.2 m	0.4 m
40	1.6 m	0.4 m	0.3 m	0.2 m	0.3 m	1.3 m	0.3 m	0.2 m	0.1 m	0.2 m

スクリーンサイズと投映距離の近似式

(a) = (0.041019x − 0.033286)　　x = スクリーンサイズ(型)
(b) = (0.033972x − 0.033542)

設置のしかた（つづき）

反転映像を投映するとき

スクリーン背後からの投映

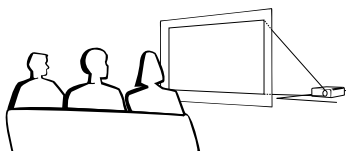
■ 透過型スクリーンをプロジェクターと視聴者の間に設置してください。

■ メニューの投映方式を「リア」に設定して、画面の左右を反転してください。（**71**ページ）

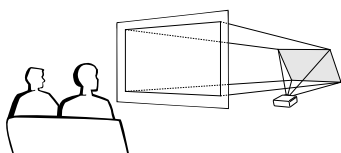
画面表示　工場出荷時の設定で投映すると…

映像の左右を反転します

メモ

- プロジェクターの高さを水平にしてスクリーンに対して垂直にすると、最適な映像を投映できます。

ミラーを使った投映

■ レンズの正面にミラー（表面鏡）を設置してください。

■ 視聴者側にミラーを置くときは、メニューの投映方式を「リア」に設定して、画面の左右を反転してください。（**71**ページ）

画面表示　工場出荷時の設定で投映すると…

映像の左右を反転します

お知らせ

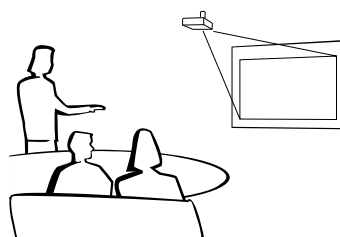
- ミラーを使用する場合は、プロジェクターとミラーの位置に注意して、視聴者の目に光が入らないようにしてください。

天井取り付けによる投映

■ 天井に取り付ける場合は、別売の取り付けユニット及び取り付けアダプター「AN-60KT」が必要です。また、取り付けの際は、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。
別売の取り付けアダプター「AN-60KT」の取り付けは、付属の天吊りアダプター取付説明書をご覧ください。

■ 天井に取り付ける前に回転スタンドを取り外してください。（回転スタンドの取り付け・取り外しかたについては**23**ページをご覧ください。）

■ プロジェクターを天井に設置するときは、**24**ページのレンズセンター位置から画面の最下端までの距離（H）に合わせて設置位置を決めてください。

■ メニューの投映方式を「天吊り」に設定して、画面の上下を反転してください。

画面表示　工場出荷時の設定で投映すると…

映像の上下を反転します

接続について

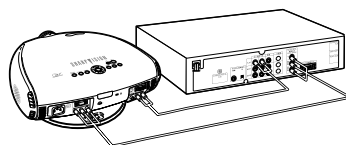
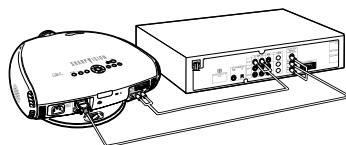
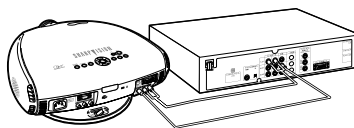
接続する前に

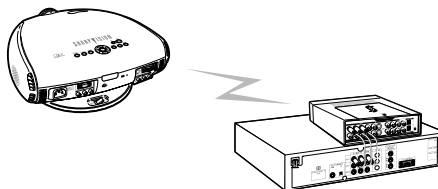
メモ

- 接続を始める前に、必ずプロジェクターや接続する機器の電源を切ってください。すべての接続が終わったあとで、プロジェクターおよび周辺機器の電源を入れます。
  コンピュータと接続した場合、コンピュータの電源は接続後、一番最後に入れてください。
- 接続の際は、接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。

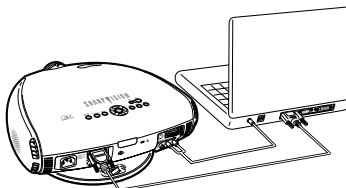
接続例

AV 機器との接続

■ 市販のビデオケーブルを使い、DVDプレーヤーやBSデジタルチューナーなどコンポーネント(色差)出力端子付機器と接続します。くわしくは**29**ページをご覧ください。

■ 3RCA/15ピンミニD-sub変換ケーブル(別売品)を使い、BSデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどと接続します。
くわしくは**30**ページをご覧ください。

■ 市販のS映像ケーブルまたはビデオケーブルを使い、ビデオやレーザーディスクプレーヤーなどと接続します。
くわしくは**31**ページをご覧ください。

ワイヤレス送信ユニットを使った接続

■ ワイヤレス送信ユニット(付属)を使い、プロジェクターから離れた場所にあるＡＶ機器と接続します。
くわしくは**32**ページをご覧ください。

コンピュータとの接続

■ 市販または別売(**4**ページ)のコンピュータ(RGB)ケーブルを使って接続します。くわしくは**37**ページをご覧ください。
■RS-232Cケーブル(クロス・メスーメスタイプ)を使って接続すると、コンピュータからプロジェクターを操作(制御)できます。
くわしくは**38**ページをご覧ください。

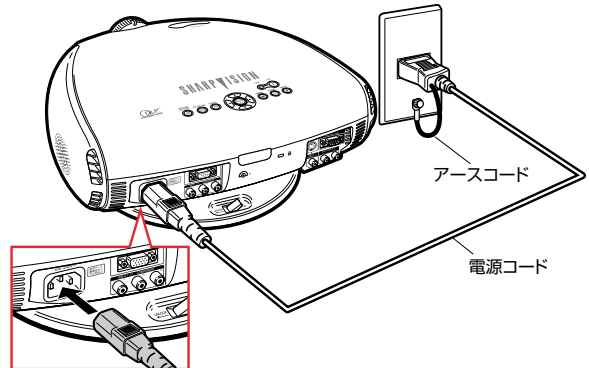
つづく

電源コードを接続する

1 プロジェクターの背面にあるAC電源ソケットに電源コードを接続する

2 アースコードを接続する

- 電源コードをコンセントに差し込む前に、必ずアースコードを取り付けてください。
- アースコードを取り外すときは、必ずプラグをコンセントから抜いた後、行ってください。

3 電源コードをコンセントに差し込む

- 電源を切った後に電源コードをコンセントから抜いた場合は、再び電源コードを差し込むと、プロジェクターは待機状態になります。電源を入れたまま電源コードを抜いた場合や停電などで電源が切れた場合は、電源コードを差し込むと自動的に電源が入ります。

AV機器を接続する

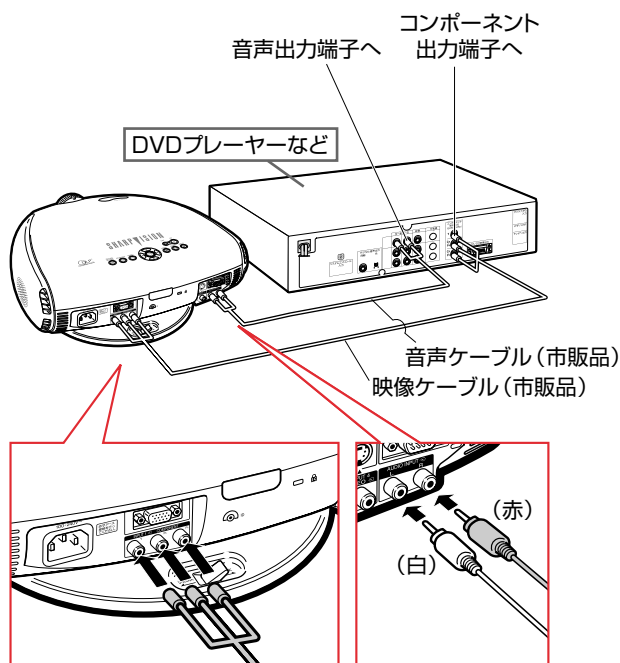
コンポーネント（色差）出力端子付きAV機器と接続する（INPUT 1端子への接続）

市販の映像コードを使い、BSデジタルチューナー・DVDプレーヤーなどコンポーネント（色差）出力端子付ビデオ機器と接続できます。

1 市販の映像ケーブル（コンポーネントケーブル）でプロジェクターのINPUT（入力）1端子とAV機器のコンポーネント（色差）出力端子を接続する

メモ

DVDなどのコンポーネント端子には、Y、CB、CRと表記されている場合があります。このときの各端子は次のように接続してください。

プロジェクター	Y	PB	PR
	↕	↕	↕
DVDなど	Y	CB	CR

2 市販の音声ケーブルで、プロジェクターのAUDIO INPUT（音声入力）端子とAV機器の音声出力端子を接続する

設置と接続のしかた

つづく

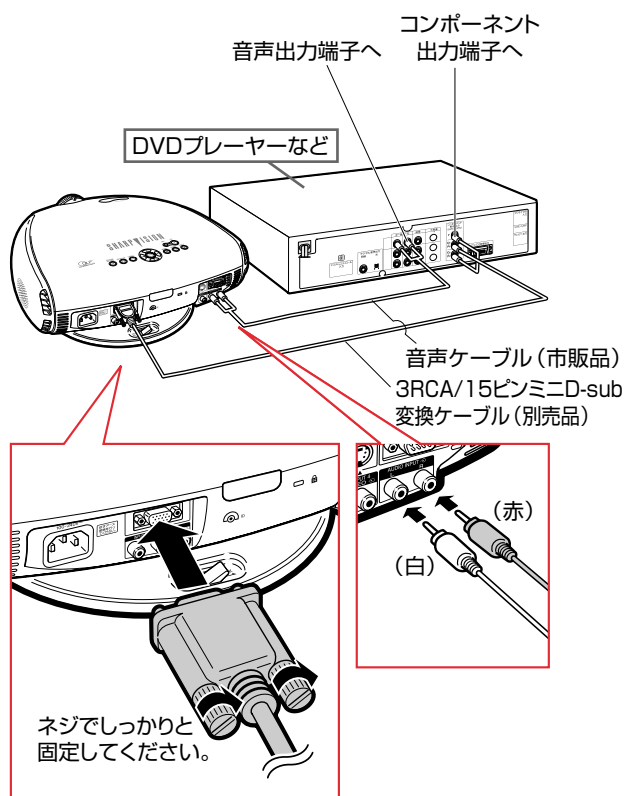
コンポーネント（色差）出力端子付きAV機器と接続する（INPUT2端子への接続）

BSビデオデジタルチューナーやDVDプレーヤーなど、コンポーネント（色差）出力端子のある機器をIN-PUT（入力）2端子に接続するときは、別売品の3RCA/15ピンミニD-sub変換ケーブル「AN-C3CP」を使って接続します。

1 **別売りの3RCA/15ピンミニD-Sub変換ケーブルで、プロジェクターのINPUT（入力）2端子とAV機器のコンポーネント（色差）出力端子を接続する**

メモ

- この方法で接続したときは、メニューの「入力信号タイプ」を「色差入力」に設定するか、リモコンの RGB/COMP. で「色差入力」を選択してください。

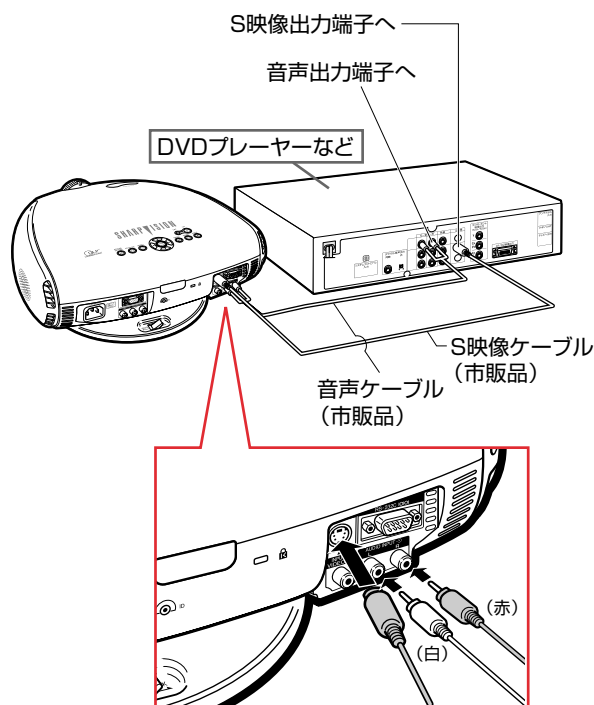
2 **市販の音声ケーブルで、プロジェクターのAUDIO INPUT（音声入力）端子とAV機器の音声出力端子を接続する**

S映像出力端子付きAV機器と接続する（INPUT3端子への接続）

市販のS映像ケーブルを使い、ビデオ・レーザーディスクプレーヤー・その他のAV機器と接続できます。

メモ

- S映像端子付きビデオ機器を接続するときは、より高品位な画像再生のため、プロジェクターの入力3（Sビデオ）端子とビデオ機器のS映像出力端子を市販のS映像ケーブルで接続してお使いください。

1 市販のS映像ケーブルで、プロジェクターのINPUT（入力）3端子とAV機器のS映像出力端子を接続する

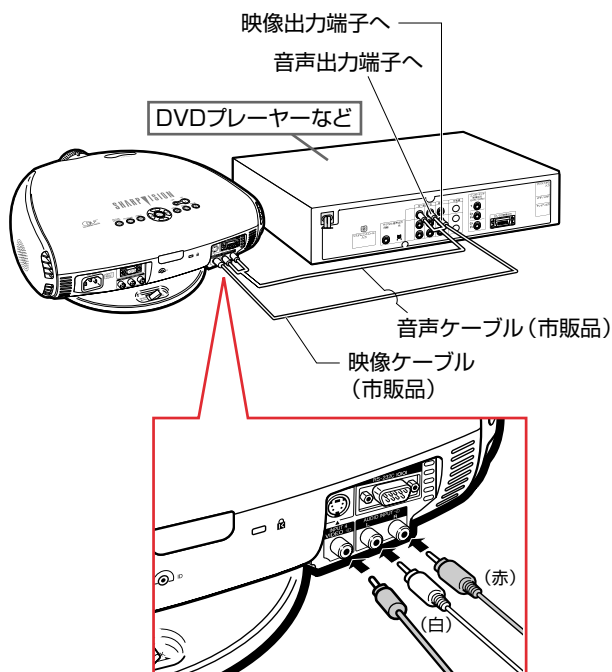
2 市販の音声ケーブルで、プロジェクターのAUDIO INPUT（音声入力）端子とAV機器の音声出力端子を接続する

映像出力端子付きAV機器と接続する（INPUT4端子への接続）

市販の映像ケーブルを使い、ビデオ・レーザーディスクプレーヤー・その他のAV機器と接続できます。

メモ

- お持ちのビデオ機器にS映像出力端子がない場合は、プロジェクターの入力4（ビデオ）端子とビデオ機器のビデオ出力端子を市販の映像ケーブルで接続してお使いください。

1 市販の映像ケーブルで、プロジェクターのINPUT（入力）4端子とAV機器の映像出力端子を接続する

2 市販の音声ケーブルで、プロジェクターのAUDIO INPUT（音声入力）端子とAV機器の音声出力端子を接続する

ワイヤレスでAV機器を接続する

ワイヤレス送信ユニットを使う

付属のワイヤレス送信ユニットにAV機器を接続しておけば、プロジェクターとAV機器をワイヤレスで接続できます。床や天井を横切るケーブル類が不要となり、プロジェクターの設置場所を自由に選んで使うことができます。

メモ

ワイヤレス送信ユニットとプロジェクターの送/受信について

• ワイヤレス送信ユニットから信号が送信され、プロジェクターが受信します。

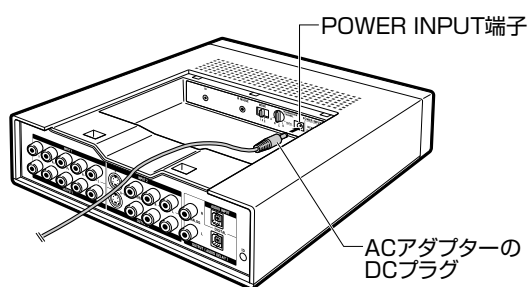
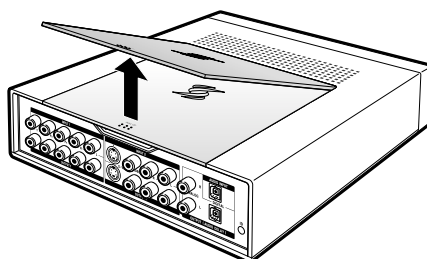
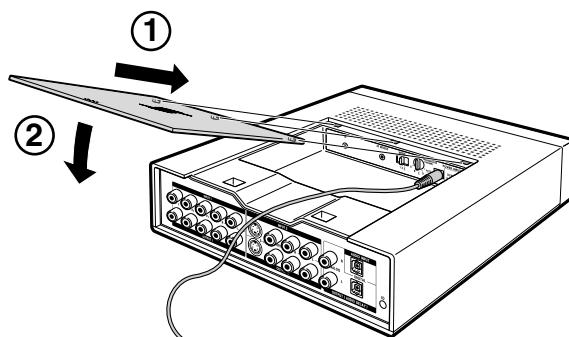
お知らせ

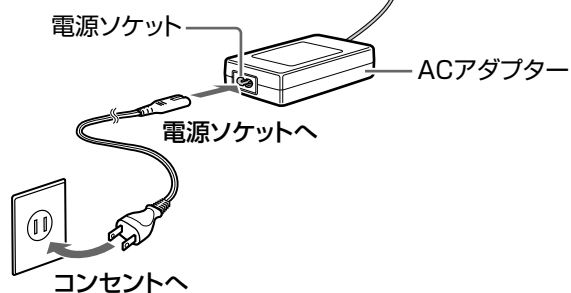
• プロジェクターの設置場所によっては、電波が届かない場所や電波環境が悪い場所もあります。最初にワイヤレス送信ユニットとプロジェクターを近くに置いて、正常に受信できることを確認してから、プロジェクターを希望する場所に設置してください。

利用イメージ（その1）・・・34ページ

利用イメージ（その2）・・・35ページ

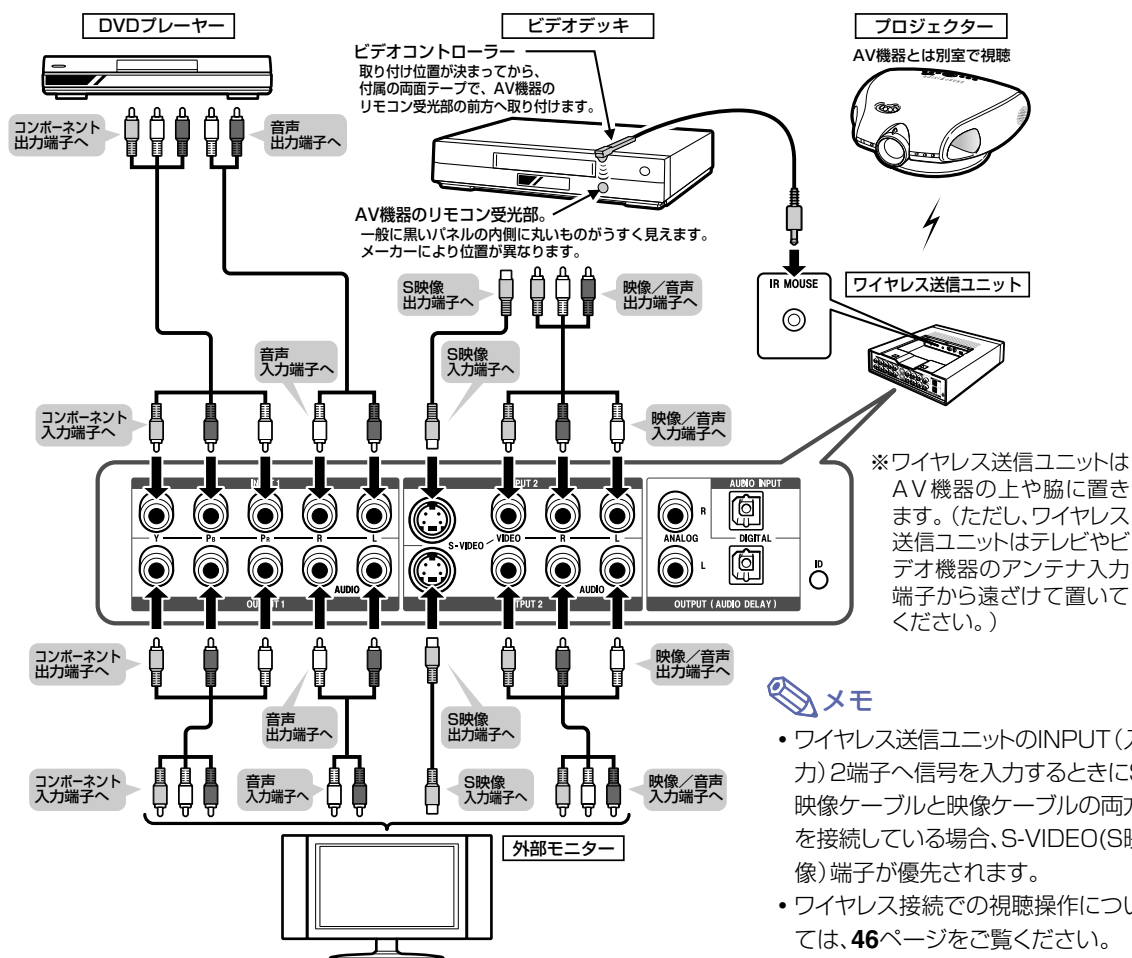
ワイヤレス送信ユニットに電源コードを接続する

1 **ワイヤレス送信ユニットの天面カバーを外し、ACアダプターのDCプラグをPOWER INPUT端子に接続する**

2 **接続後、ワイヤレス送信ユニットの天面カバーを元に戻す**

3 **ACアダプターのACプラグをコンセントに接続する**

- ワイヤレス送信ユニットの電源表示ランプが赤色に点灯します。

接続について（つづき）

ワイヤレスで接続する（その1）

電源コンセントさえあれば、ご家庭内のどこでも大画面映像を楽しむことができます。

システム例

※ワイヤレス送信ユニットはAV機器の上や脇に置きます。（ただし、ワイヤレス送信ユニットはテレビやビデオ機器のアンテナ入力端子から遠ざけて置いてください。）

メモ

- ワイヤレス送信ユニットのINPUT（入力）2端子へ信号を入力するときにS映像ケーブルと映像ケーブルの両方を接続している場合、S-VIDEO（S映像）端子が優先されます。
- ワイヤレス接続での視聴操作については、**46**ページをご覧ください。

お知らせ

- ハイビジョン信号（1125i／750p）とプログレッシブ信号（525p）は、ワイヤレス送信ユニットから伝送できません。
- ワイヤレス送信ユニットの電源を入れてからプロジェクターと通信できるまで、電波の環境に応じて時間がかかりますが、故障ではありません。
- 通信中、電波の状況によっては、映像･音声が途切れたり（映像･音声が停止する）、ブロック状のノイズが入ることがありますが、故障ではありません。このようなときは、プロジェクターまたはワイヤレス送信ユニットの位置を動かし、映像の状態が最も良くなる場所に設置してください。

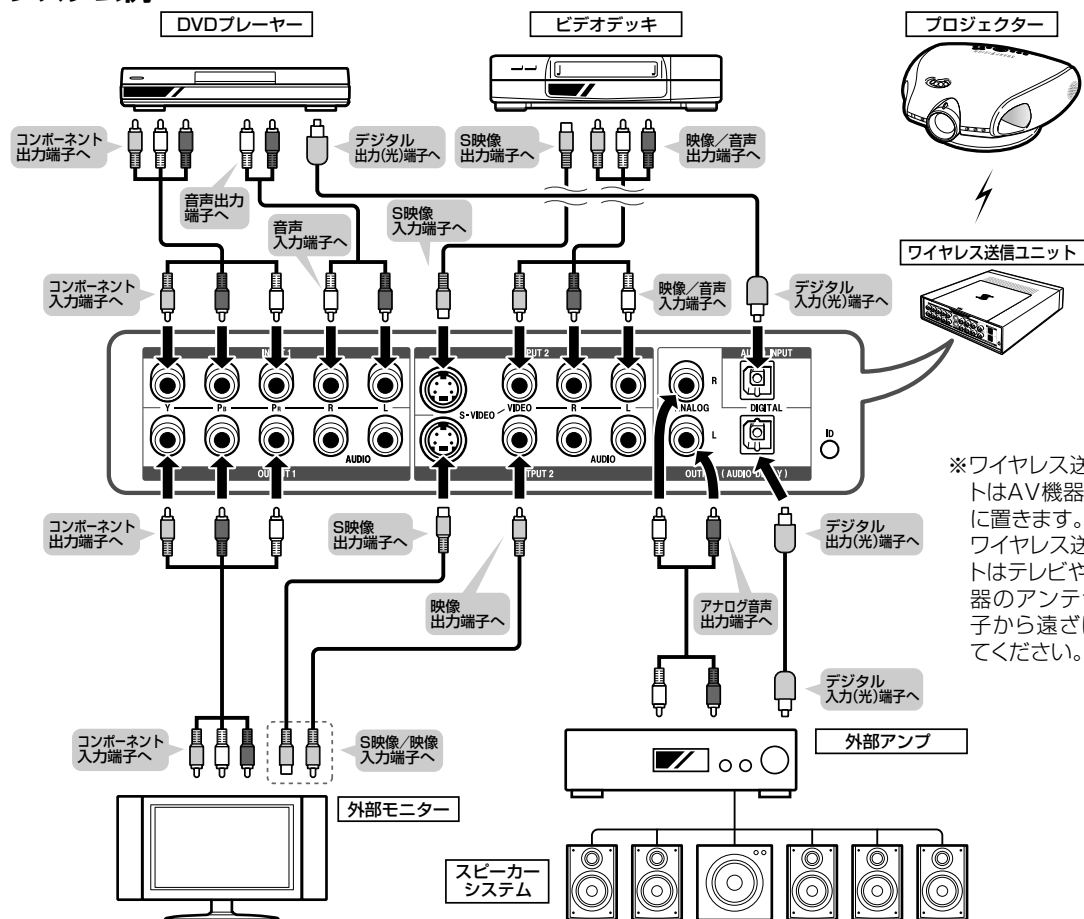
ビデオコントローラーを取り付けると

- AV機器のリモコンをプロジェクターに向けて操作することで、AV機器が操作できます。
- ワイヤレス送信ユニットにビデオコントローラーを接続してコントロールできるAV機器は1台だけです。（プロジェクターで視聴したいAV機器にビデオコントローラーを取り付けてください。）
- ビデオコントローラーの信号送信部がAV機器のリモコン受信部に確実に向いていることを確認してください。リモコン受信部に向いていないと、AV機器が操作できないことがあります。なお、AV機器のリモコン受信部の位置は、メーカーや機種により異なりますので、説明書などで確認してください。

ワイヤレスで接続する（その2）

音声ディレイ機能（36ページ）により、外部アンプを使用したホームシアターで楽しむことができます。

システム例

DVDプレーヤー
ビデオデッキ
プロジェクター
コンポーネント出力端子へ
デジタル出力(光)端子へ
S映像出力端子へ
映像／音声出力端子へ
音声出力端子へ
音声入力端子へ
S映像入力端子へ
ワイヤレス送信ユニット
コンポーネント入力端子へ
映像／音声入力端子へ
デジタル入力(光)端子へ
コンポーネント出力端子へ
S映像出力端子へ
デジタル出力(光)端子へ
映像出力端子へ
アナログ音声出力端子へ
デジタル入力(光)端子へ
コンポーネント入力端子へ
S映像／映像入力端子へ
外部アンプ
外部モニター
スピーカーシステム

※ワイヤレス送信ユニットはAV機器の上や脇に置きます。（ただし、ワイヤレス送信ユニットはテレビやビデオ機器のアンテナ入力端子から遠ざけて置いてください。）

外部アンプとの接続に合わせ、ワイヤレス送信ユニットのAUDIO DELAY（音声ディレイ）スイッチを切り換えてください。（**36**ページ）

メモ

- ワイヤレス接続での視聴操作については、**46**ページをご覧ください。

お知らせ

- ハイビジョン信号（1125i／750p）とプログレッシブ信号（525p）は、ワイヤレス送信ユニットから伝送できません。
- ワイヤレス送信ユニットの電源を入れてからプロジェクターと通信できるまで、電波の環境に応じて時間がかかりますが、故障ではありません。
- 通信中、電波の状況によっては、映像・音声が途切れたり（映像・音声が停止する）、ブロック状のノイズが入ることがありますが、故障ではありません。このようなときは、プロジェクターまたはワイヤレス送信ユニットの位置を動かし、映像の状態が最も良くなる場所に設置してください。
- デジタル音声を同軸ケーブルで入力する場合は、市販の同軸／光コンバーターをご使用ください。

外部アンプを接続する場合の設定

ワイヤレス送信ユニットの通信は、映像／音声データをMPEG-2方式で圧縮して送信し、プロジェクターが受信時に伸張処理しているため、投映する映像（音声）は、DVD等の機器が再生している映像（音声）に比べわずかに時間の遅れを生じます。このため、DVD等の機器の音声を外部アンプに直接接続して視聴した場合、外部アンプを通してスピーカーから出る音声よりもプロジェクターの映像が遅れて表示されます。
この場合、AUDIO DELAY（音声ディレイ）設定を行うことで音声をディレイ（遅延）させ、映像と音声がぴったり合うようにすることができます。

1 ワイヤレス送信ユニットに接続している入力系統に合わせて、AUDIO DELAY（音声ディレイ）スイッチを切り換える

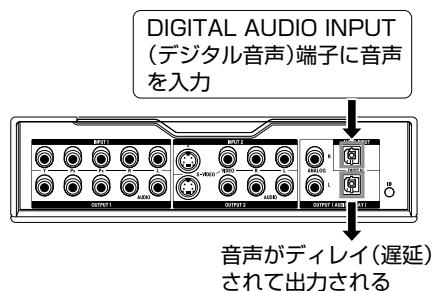
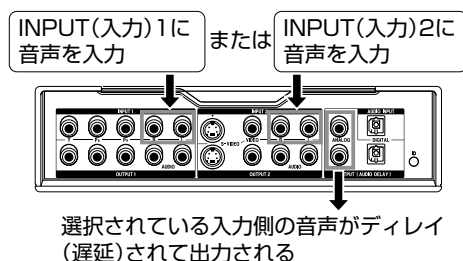
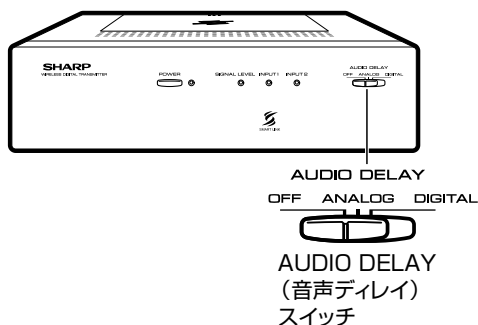
■INPUT（入力）1 または INPUT（入力）2 の音声端子に接続している場合は、スイッチを「ANALOG」にする

スイッチの位置	ANALOG AUDIO OUTPUT(AUDIO DELAY)端子からの出力
● ANALOG	ディレイされて出力
DIGITAL	ディレイされずに、そのまま出力
OFF	ディレイされずに、そのまま出力

■DIGITAL AUDIO INPUT（デジタル音声）端子に接続している場合は、スイッチを「DIGITAL」にする

スイッチの位置	DIGITAL AUDIO OUTPUT(AUDIO DELAY)端子からの出力
ANALOG	ディレイされずに、そのまま出力
● DIGITAL	ディレイされて出力
OFF	ディレイされずに、そのまま出力

ワイヤレス送信ユニットの音声入力とAUDIO DELAY端子からの出力について

- INPUT（入力）1またはINPUT（入力）2の音声端子から入力した音声信号（アナログ）は、現在選択されている入力側の信号をAUDIO DELAY端子のANALOG OUTPUT端子から出力します。
- DIGITAL AUDIO INPUT端子から入力した音声信号（デジタル）は、AUDIO DELAY端子のDIGI-TAL OUTPUT端子から出力します。

コンピュータと接続する

- 接続を始める前に、必ずコンピュータの電源を切ってください。すべての接続が終わったあとで、プロジェクターおよび周辺機器の電源を先に入れ、一番最後にコンピュータの電源を入れます。
- 接続の際は、コンピュータの取扱説明書をよくお読みください。

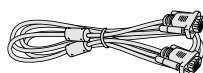
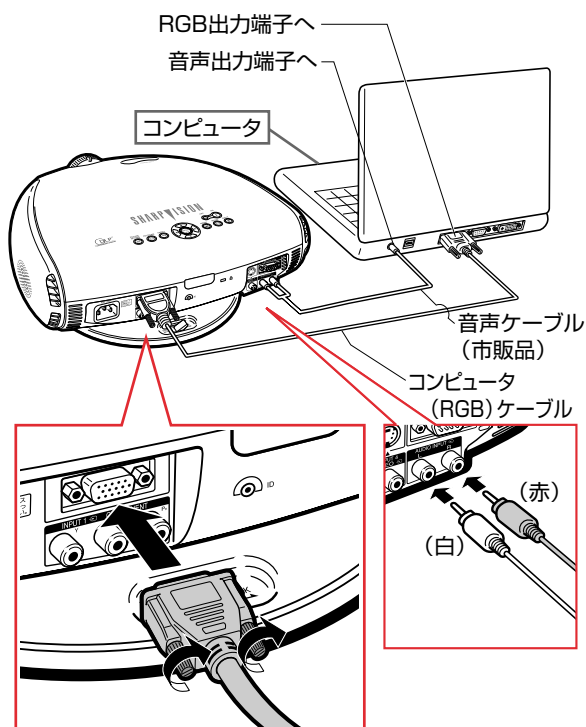
市販または別売のコンピュータ(RGB)ケーブルを使って接続する

IBM-PCまたはMacintoshと接続できます。

1 市販のコンピュータ(RGB)ケーブルを使ってプロジェクターとコンピュータを接続する

2 音声を入力する場合は、市販の音声ケーブルを使ってプロジェクターとコンピュータを接続する。

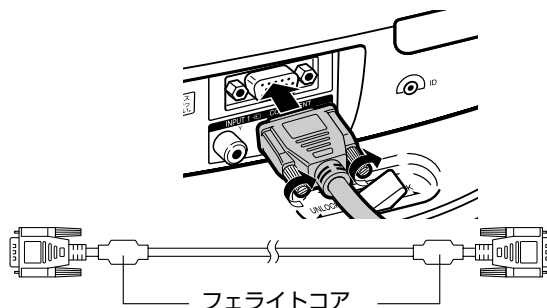
メモ

- 対応しているコンピュータの表示モードについてくわしくは、**80**ページの「RGB入力信号(推奨信号)について」をご覧ください。一覧表に記載のない表示モードで使用すると、本製品の機能の一部が使用できない場合があります。
- この方法で接続したときは、メニューの「入力信号タイプ」を「RGB入力」に設定するかリモコンの RGB/COMP. でRGB入力を選択してください。
- Macintoshと接続する場合、コンピュータケーブルにアダプターが必要になる場合があります。販売店または、シャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。

固定ネジ付ケーブルの取り扱いについて

■ 固定ネジ付ケーブルは、端子の形状を合わせて差し込み、両端のネジでしっかりと固定してください。

■ コンピュータ(RGB)ケーブルについているフェライトコアは、電気用品安全法に適合するために必要なものですので、絶対に取り外さないでください。

設置と接続のしかた

つづく

接続について(つづき)

RS-232Cケーブルで接続する

市販または別売のRS-232Cケーブル(クロス・メス-メスタイプ)を使って、プロジェクターのRS-232C端子とコンピュータのシリアル(RS-232C)ポートを接続すると、コンピュータからプロジェクターを操作することができます。くわしくは79ページをご覧ください。

1 コンピュータ(RGB)ケーブルを接続する(37ページ参照)

2 RS-232Cケーブル(クロス・メスーメスタイプ)の一方をプロジェクターのRS-232C端子に接続する

3 もう一方をコンピュータのRS-232C端子に接続する

別売品	RS-232Cケーブル 形名：AN-C10RS（10m）

お知らせ

RS-232Cケーブルを接続するときは

- コンピュータの電源が入っているときには、コンピュータにRS-232Cケーブルを接続したり、外したりしないでください。
- RS-232Cケーブル以外は接続しないでください。
- パソコン側のRS-232C端子以外には接続しないでください。コンピュータまたはプロジェクターが破損する恐れがあります。

メモ

- コンピュータポートが正しく設定されていないと、コンピュータからプロジェクターを操作するなどの機能が正しく動作しないことがあります。正しいドライバをセットアップ・インストールする詳細についてはコンピュータの取扱説明書をご参照ください。
- Macintoshと接続する場合、コンピュータケーブルにアダプターが必要になる場合があります。販売店または、シャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。

基本操作

投映のしかた

電源を入れてから切るまで

操作を始める前に、外部機器との接続を済ませておいてください。

1 アースコードを取り付ける（①）

2 電源プラグをコンセントに接続する（②）

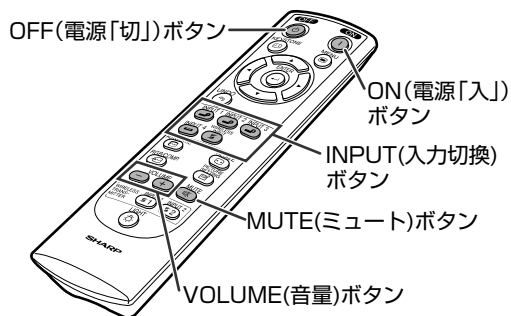
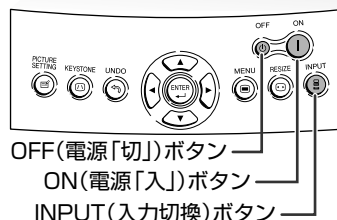
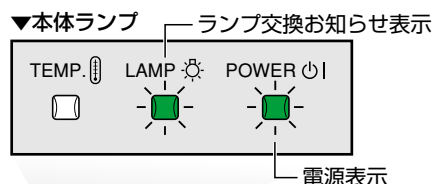
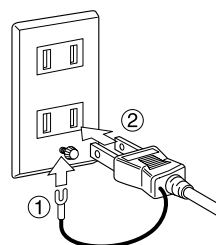
- プロジェクターの電源表示ランプが赤色に点灯し、プロジェクターが待機状態になります。

3 本体の ON またはリモコンの ON を押す

- 電源表示ランプが緑色で点灯します。ランプ交換お知らせ表示が点灯してから、プロジェクターの操作を始めてください。

メモ

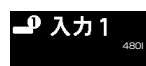
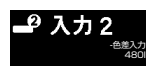
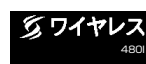
- ランプ交換お知らせ表示はランプの状態をお知らせします。
  - **緑色点滅**：ランプ起動中/ランプ消灯処理中
  - **緑色点灯**：ランプ点灯中
  - **赤色点灯**：ランプ交換
- 電源を切った直後に、再び電源を入れると、ランプ交換お知らせ表示が点灯するまで、多少時間がかかる場合があります。
- プロジェクターをお買い上げ後最初に電源を入れたとき、排気孔からわずかに匂いがする場合がありますが、ご使用にともない、なくなります。

4 リモコンのINPUT 1、INPUT 2、INPUT 3、INPUT 4、WIRELESS INPUTを押し、入力モードを選ぶ

- 本体のINPUTを押すと、
→入力1→入力2→入力3→入力4→ワイヤレス
の順番で切り換わります。

- 信号が入力されていないと、「入力無信号」と画面表示されます。プロジェクターで認識できない信号を受け取ると、「判別不能」と画面表示されます。

入力モードについて

入力1（色差）	入力端子1に接続した機器を投映したいとき
入力2（色差/RGB）	入力端子2に接続した機器を投映したいとき
入力3（Sビデオ）	入力端子3に接続した機器を投映したいとき
入力4（ビデオ）	入力端子4に接続した機器を投映したいとき
ワイヤレス	ワイヤレス送信ユニットへの入力信号をワイヤレスAV伝送し投映したいとき（**46**ページ）

▼表示画面（例）

5 VOLUME −＋を押して、音量を調整する

- ＋を押すと音量が大きくなります。
- −を押すと音量が小さくなります。

- 本体操作で音量を調整するときは、メニュー画面で音声調整メニューの「音量」を選び調整してください。（**62**ページ）

音量
10

6 MUTEを押して、一時的に音を消す

- もう一度MUTEを押すと、音量が元の大きさに戻ります。

- 入力切換をしたときや、音量調整をすると、ミュートは解除されます。

7 OFF ⏻を押し、確認画面が表示されている間にもう一度、OFF ⏻を押し、電源を切る

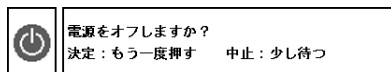
電源をオフしますか？
決定：もう一度押す　中止：少し待つ

メモ

- 間違って OFF ⏻を1回押したときは、そのままお待ちください。しばらくすると確認画面が消え、操作に戻ることができます。
- OFF ⏻を2回押すと、電源表示が赤色に点灯し、冷却ファンが約90秒間動作します。このとき、ランプを低電圧駆動し、メッセージとともに若干の光が出た状態が続きます。（ランプ保護のためです。）

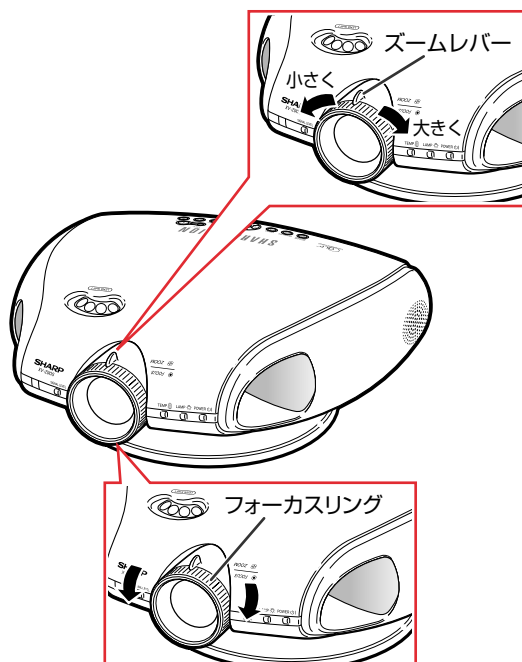
終了中です。少しお待ちください。

お知らせ

- 投映中および冷却ファンの動作中に、電源プラグを抜かないでください。冷却ファンも同時に止まるため、温度上昇により故障の原因となります。

レンズを調整する

ズーム操作やフォーカス（ピント）調整は本体で行います。

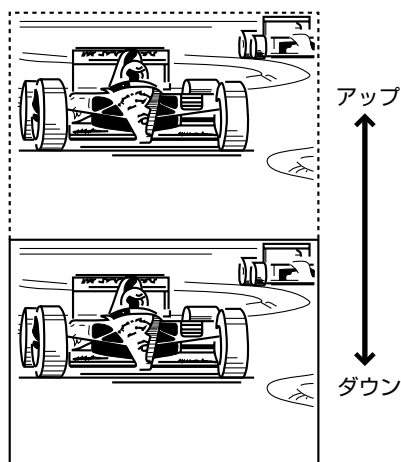
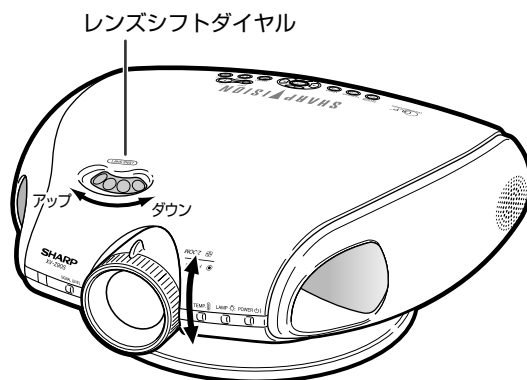
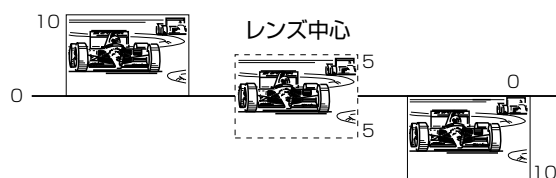
1 ズームは、ズームレバーを動かして操作する

2 フォーカス（ピント）は、フォーカスリングをまわして調整する

投映画面位置を上下に移動する

レンズシフトダイヤルを回すことにより、投映画面位置を上下に移動することができます。

1 **プロジェクター上面のレンズシフトダイヤルを回す**

お知らせ

- 上限位置と下限位置の範囲外にレンズシフトダイヤルを無理に回さないでください。プロジェクターの故障の原因になることがあります。

レンズシフト

メモ

- 投映画面位置を調整する場合は、レンズシフトダイヤルを回して調節してください。
  上限位置：レンズの中心とスクリーンの下端が同じ高さになるポイント(10:0)
  下限位置：レンズの中心とスクリーンの上端が同じ高さになるポイント(0:10)

基本操作

投映のしかた（つづき）

画面の台形歪みを補正する（キーストーン補正）

メモ

- キーストーン補正とは
  映像をスクリーンに対しななめの位置から角度をつけて投映すると、映像が台形に歪みます。この台形を補正する機能がキーストーン補正です。

KEYSTONE（台形補正）ボタン

▲▼◀▶ボタン

1 KEYSTONE を押す

2 ▲または▼を押し、補正する方向を選択する

方向	説明
H キーストーン	水平方向の台形補正をおこないます。
V キーストーン	垂直方向の台形補正をおこないます。
標準	水平および垂直方向の台形補正を工場出荷時の設定に戻します。

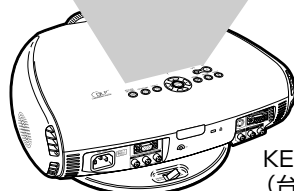
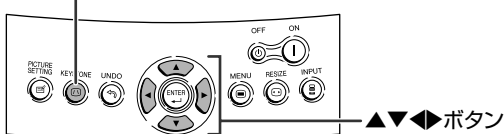
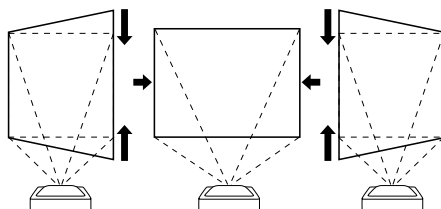
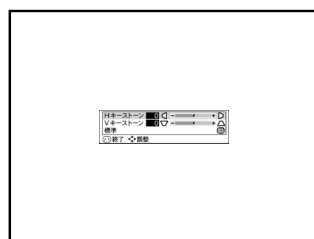
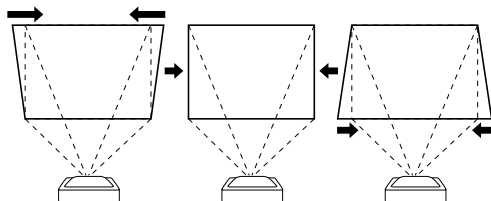
Hキーストーン 0
Vキーストーン 0
標準
終了 調整

水平方向の台形補正

垂直方向の台形補正

3 ◀または▶を押し、調整する

- キーストーン補正中に約60秒間操作を行わないと、補正画面が解除されます。
- キーストーン補正をすると、投映画像の直線や映像の端がギザギザになっているように見える場合があります。
- 水平方向と垂直方向の両方を補正したときは、水平方向/垂直方向のどちらかだけを補正したときよりも、それぞれの補正可動範囲が狭くなります。
- キーストーン補正を行うと、デジタルシフトと字幕調整は調整できなくなります。

4 KEYSTONE を押し、終了する

キーストーン補正を使って投映する場合の設置方法

①**25**ページの「画面サイズと投映距離」をご覧になり、プロジェクターをスクリーンに対して投映可能な範囲におきます。

②映像を投映します。
このとき、フォーカスを合わせておきます。
(**42**ページ)

③回転スタンドで投映角度を変えて、スクリーンに投映します。(**22**ページ)

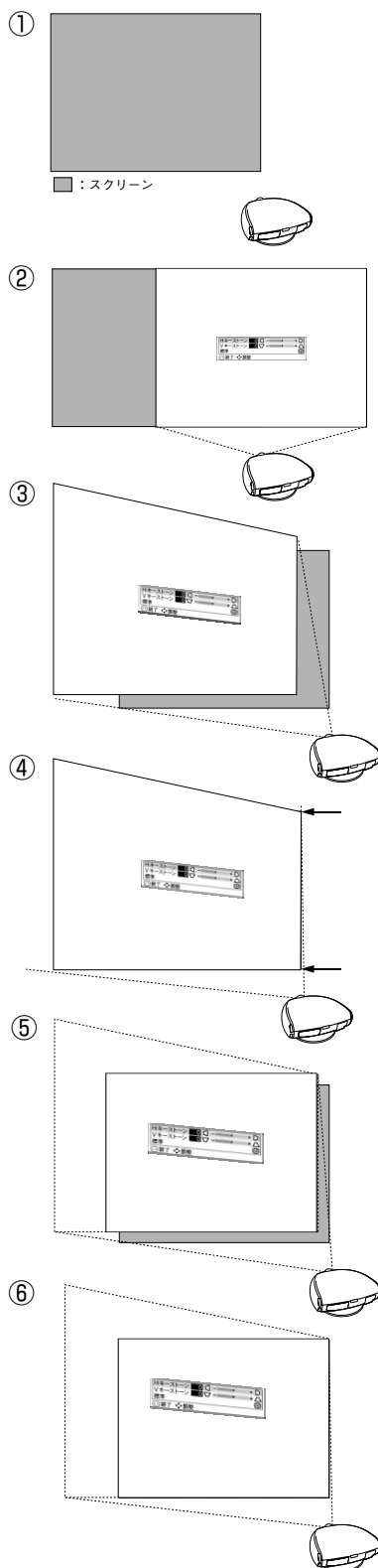
④ズーム機能(**42**ページ)と回転スタンドを調節して、プロジェクターに近い方のスクリーンの端と投映している映像の端を合わせます。

⑤スクリーンと映像のサイズが合うようにキーストーン機能で調整します。

⑥ズーム機能と回転スタンドを調節してスクリーンと映像を合わせます。

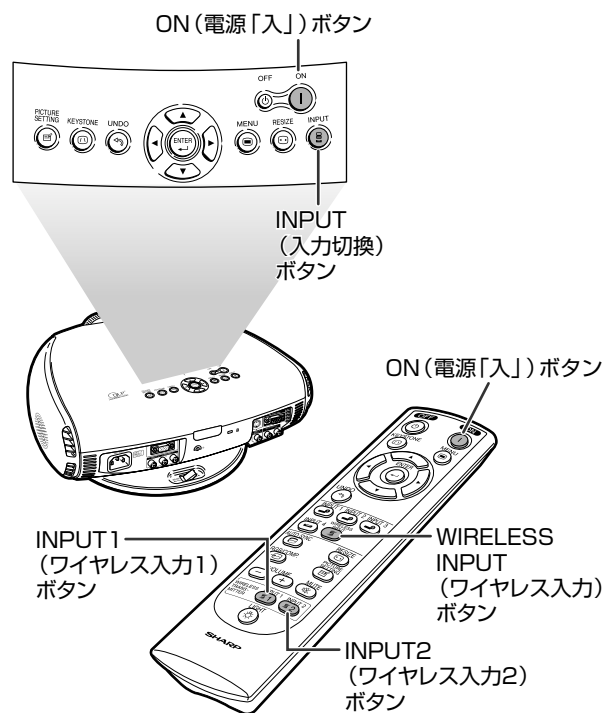
⑦最後に画面の中央にフォーカスが合うよう調整します。

メモ

- レンズシフトが一番上以外の位置にあるときは映像の縦横比が少しずれます。
- HキーストーンとVキーストーンを同時に調整すると映像の縦横比が少しずれます。

ワイヤレス接続で投映する

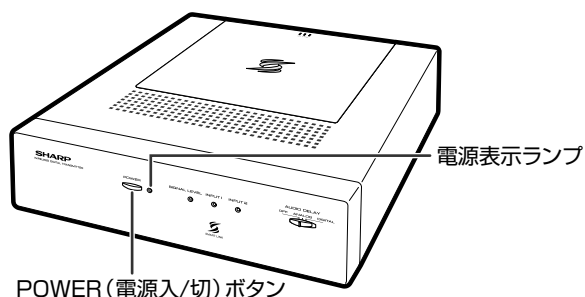
ワイヤレス接続で投映する

1 **(本体)または(リモコン)を押し、プロジェクターの電源を入れる**

- 電源表示が緑色で点灯します。ランプ交換お知らせ表示が点灯してから、プロジェクターの操作を始めてください。

2 **(ワイヤレス送信ユニット)を押し、ワイヤレス送信ユニットの電源を入れる**

- ワイヤレス送信ユニットの電源表示ランプが緑色点灯し、電源が入ります。
- 一度電源を入れておくと、プロジェクターの電源の入/切に連動してワイヤレス送信ユニットの電源を入/切することができます。(プロジェクターの電源の入/切操作後、ワイヤレス送信ユニットの電源が入/切されるまでに数秒かかります。)

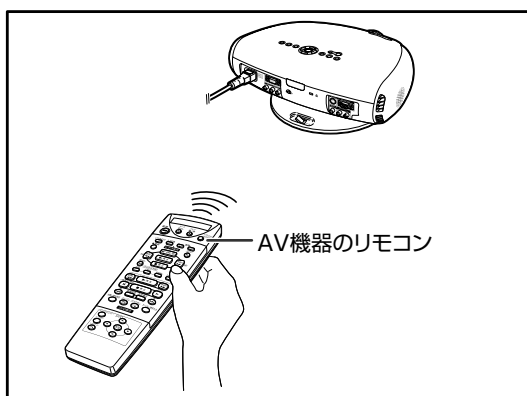
メモ

- ワイヤレス送信ユニットの電源表示ランプは、電源状態をお知らせします。
  赤色点灯: 電源「切」状態。
  緑色点滅: プロジェクターの電源操作待ち受け状態。
  緑色点灯: 電源「入」状態。

3 **(本体)または(リモコン)を押し、入力モードを「ワイヤレス」にする**

4 **リモコンのまたはを押し、再生したいAV機器が接続されている入力に切り換える**

5 AV機器を操作し、再生する

メモ

- ビデオコントローラーを接続・設置している場合は、AV機器のリモコンをプロジェクターに向けて操作すると、AV機器が操作できます。

6 （ワイヤレス送信ユニット）を押し、ワイヤレス送信ユニットの電源を切る

メモ

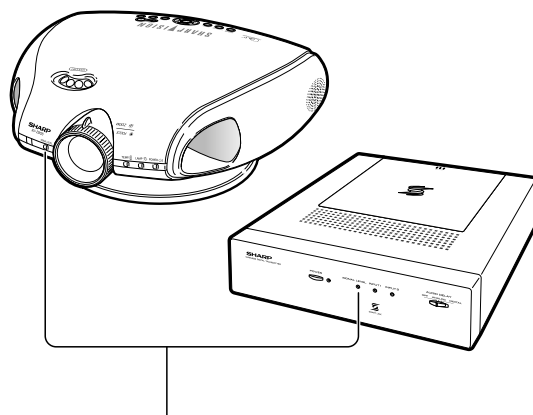
- ビデオコントローラーを接続・設置している場合は、ワイヤレス送信ユニットの電源を切る前にAV機器のリモコンを使ってAV機器の電源を切ってください。

お知らせ

- ハイビジョン信号（1125i／750p）とプログレッシブ信号（525p）は、ワイヤレス送信ユニットから伝送できません。
- 通信中、電波の状況によっては、映像・音声が途切れたり（映像・音声が停止する）、ブロック状のノイズが入ることがありますが、故障ではありません。このようなときは、プロジェクターまたはワイヤレス送信ユニットの位置を動かし、映像の状態が最も良くなる場所に設置してください。
- ノイズの多い映像（ビデオ機器のサーチ映像やノイズの多いテレビ映像など）をワイヤレス送信ユニットに入力し送信すると、プロジェクターの映像にブロック状のノイズが出たり、映像が停止することがあります。

機能の反応の遅れについて

- ワイヤレス送信ユニットの通信は、映像／音声データをMPEG-2方式で圧縮して送信し、プロジェクターが受信時に伸張処理しているため、投映する映像（音声）は、AV機器が再生している映像（音声）に比べわずかに時間の遅れを生じます。（時報などのチェック時はご注意ください。）
また、ビデオコントローラーを接続・設置している場合は、AV機器のリモコンをプロジェクターに向けた操作でも若干の反応遅れがありますので、ご了承ください。

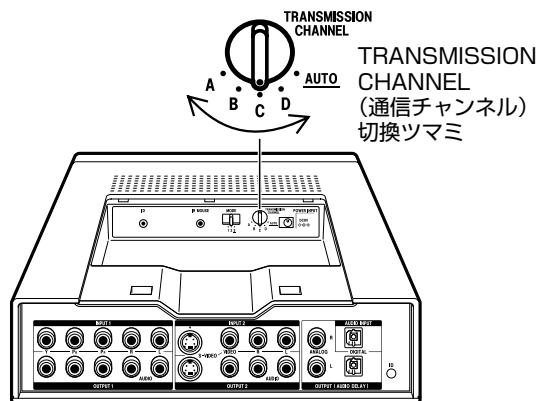
SIGNAL LEVEL（受信感度）表示について

緑色点灯	正常に受信中
緑色点滅	送信機からの電波を探しているとき（プロジェクター側のみ）
赤色点灯	電波状態が良好でない
消灯	無線で接続できていないとき

※SIGNAL LEVEL表示はあくまで目安であり、電波状態によっては送/受信が不安定になることがあります。

ワイヤレス接続で投映する（つづき）

ワイヤレス送信ユニットの通信チャンネルを設定する

工場出荷時は、AUTO（自動）に設定されていますが、近くの機器からの電波障害により、受信状態が悪くなったときは、正常に受信できるように通信チャンネルを切り換えてください。

1 ワイヤレス送信ユニットのTRANS-MISSION CHANNEL（通信チャンネル）切換ツマミを回し、正常に受信できるよう、通信チャンネルを切り換える

- 通信中に、TRANSMISSION CHANNEL（通信チャンネル）を切り換えると、映像が一旦静止し、その後黒い画面になり、正常状態に戻ります。
- 同時にワイヤレス伝送機能を使った投映を行なう場合は最大で3台までの使用が可能です。
- チャンネルCとチャンネルDは混信する可能性がありますので、2台以上のワイヤレス送信ユニットを同時にご使用になる際は、チャンネルCとチャンネルDの組み合わせは避けて下さい。

ワイヤレス送信ユニットの画質調整について

プロジェクターから投映される映像の状態が、最も良くなるよう調整することができます。また、プロジェクターおよびワイヤレス送信ユニットの設置場所は、映像の状態が最も良い場所に設置してください。

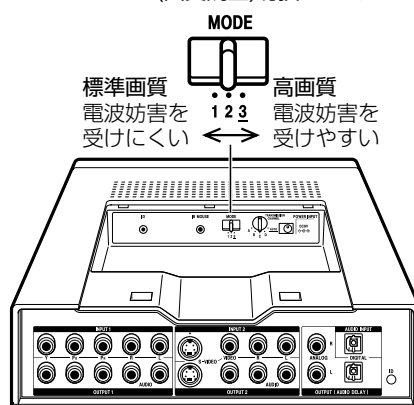
1 ワイヤレス送信ユニットのMODE（画質調整）切換ツマミを動かし、画質の最良点に合わせる

MODE(画質調整)切換ツマミ

MODE

標準画質
電波妨害を受けにくい

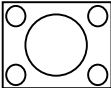
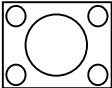
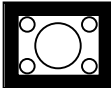
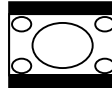
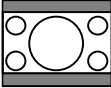
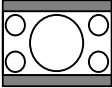
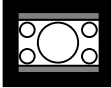
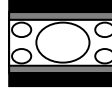
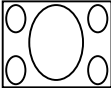
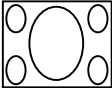
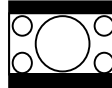
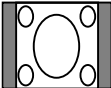
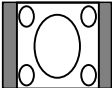
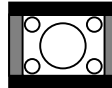
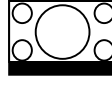
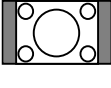
1 2 3

高画質
電波妨害を受けやすい

- 通信中に、MODE（画質調整）を切り換えると、映像が一旦静止し、しばらくして正常状態に戻ります。

画像表示モードを選ぶ

入力された映像の画質をよくするために、画像表示モードを切り換えることができます。入力信号の種類によって、「ズーム」・「標準」・「スクイーズ」を選んでください。

入力信号の種類によって、画像の表示を切り換える

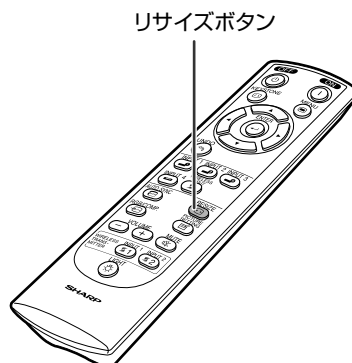
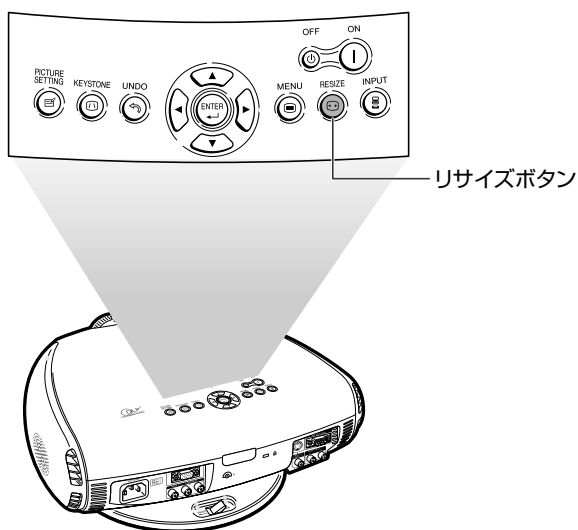
1 RESIZE を押す

RESIZE を押すごとに、次のページのように画面表示モードは変わります。

メモ

- 初期の状態に戻るには、「画面サイズ」が画面に表示されているとき、UNDO を押してください。
- 750pや1125iの映像信号を入力したときは、スクイーズに固定されます。

リサイズボタン

リサイズボタン

基本操作

画像表示モードを選ぶ（つづき）

入力信号			表示イメージ		
DVD / VIDEO	コンピュータ	画像	ズーム 画像の縦横比を保ったままスクリーン一杯に使って投映するモード	標準 スクリーンの上下左右をカットした4:3部分に縦横比を保ったままの画像を投映するモード	スクイーズ スクリーンの上下をカットした16:9部分を使って横方向に拡大した画像を投映するモード
525i 525P NTSC PAL SECAM	**VGA (640 × 480) SVGA (800 × 600) XGA (1024 × 768)**	縦横比 4:3	＊	＊	
		レターボックス	＊	＊	
		スクイーズ 16:9			＊
		スクイーズ 4:3			＊
750P 1125i	**–**	縦横比16:9			＊
					＊

＊ それぞれの映像を正しい縦横比と正しい表示範囲で見るためのモード

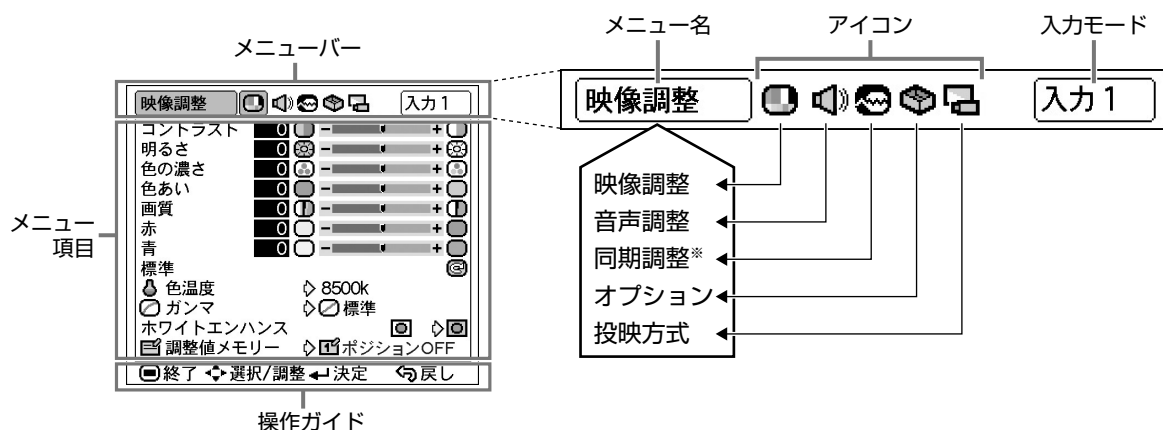
マスクされ映像がない部分

元の信号自体に映像が無い部分

調整・設定をする

メニューの使いかた

このプロジェクターの調整や設定は、メニュー画面で行います。（入力モードによって、メニュー内容は変わります。）
メニューの操作は、プロジェクター本体、またはリモコンで行います。

メニュー画面の構成について

メニュー名とメニュー項目は、アイコンを選択することにより変えられます。
※「同期調整」は、入力3モード/入力4モードでは表示されません。

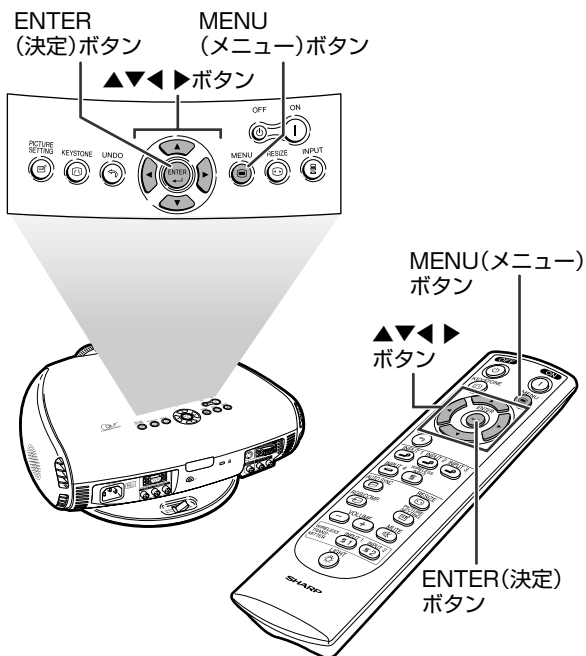
メニューの基本操作（調整）

1 MENU ⊜ **を押す**

メモ

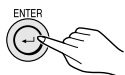
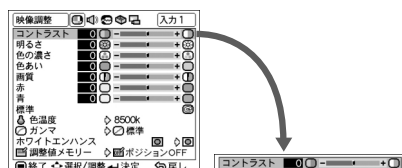
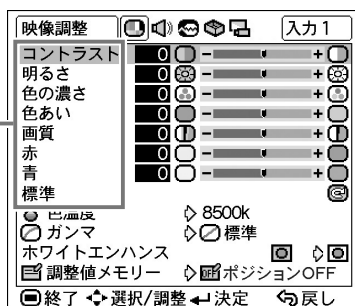
- 選んでいる入力モードの「映像調整」メニュー画面が表示されます。

2 ◀または▶を押し、調整するメニュー（アイコン）を選ぶ

メモ

- メニューの詳細については**56**、**57**ページのメニュー表示内容一覧をご覧ください。

3 ▲または▼を押し、調整する項目を選ぶ

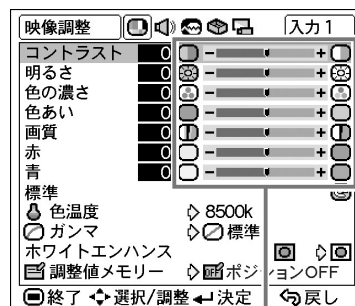
メモ

- 調整項目をひとつだけ表示するには、調整する項目を選んだ後でENTERを押してください。選んだ調整項目だけが表示されます。この表示の状態で▲または▼を押すと次の項目（「コントラスト」の次は「明るさ」）が表示されます。

- UNDOを押すと、前の画面に戻ります。

4 ◀または▶を押し、選んだ項目の調整（設定）をする

- 調整した内容が記憶されます。

5 MENUを押す

- 表示が消えます。

調整・設定をする

メニューの使いかた（つづき）

メニューの基本操作（設定）

ENTER（決定）ボタン
MENU（メニュー）ボタン
▲▼◀ ▶ボタン
MENU（メニュー）ボタン
▲▼◀ ▶ボタン
ENTER（決定）ボタン

1 MENU ⊜**を押す**

メモ

- 選んでいる入力モードの「映像調整」メニュー画面が表示されます。

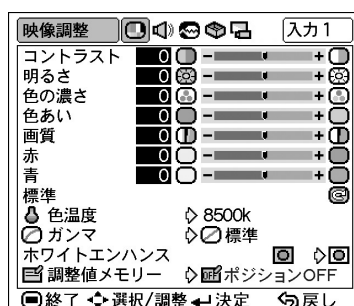
2 ◀**または**▶**を押し、調整するメニュー（アイコン）を選ぶ**

メモ

- メニューの詳細については**56**、**57**ページページのメニュー表示内容一覧をご覧ください。

3 ▲**または**▼**を押し、設定する項目を選ぶ**

メモ

- UNDO ↶を押すと、前の画面に戻ります。

4 ▶を押す

• カーソルがサブメニューに移ります。
• 設定項目によっては、サブメニューは表示されずに◀または▶を押し、⇨の向きでアイコンを選び設定する項目があります。設定後は、手順**7**へ進みます。

5 ▲または▼を押し、サブメニュー表示された項目の設定を選ぶ

6 ENTERを押す

• 選んだ項目が設定されます。

7 MENUを押す

• 表示が消えます。

調整・設定をする

メニュー表示内容一覧

プロジェクターで設定できる項目を示します。

■入力1/2モードのとき

メインメニュー / サブメニュー

- 映像調整（58ページ）
  - コントラスト -30 ↔ +30
  - 明るさ -30 ↔ +30
  - 色の濃さ -30 ↔ +30
  - 色あい -30 ↔ +30
  - 画質 -30 ↔ +30
  - 赤 -30 ↔ +30
  - 青 -30 ↔ +30
  - 標準
  - 色温度
    - 5500k
    - 6500k
    - 7500k
    - 8500k
    - 9300k
    - 10500k
  - ガンマ
    - 標準
    - 暗部階調
    - 明部階調
    - ハイライト
  - ホワイトエンハンス [ON/OFF]
  - 調整値メモリー
    - ポジション 1
    - ポジション 2
    - ポジション 3
    - ポジション 4
    - ポジション 5
    - ポジションOFF
- 音声調整（62ページ）
  - 音量
  - バランス
  - 標準
- 同期調整（63ページ）
  - クロック -30 ↔ +30
  - 水平位相 -15 ↔ +15
  - 水平位置 -30 ↔ +30
  - 垂直位置 -30 ↔ +30
  - 標準
  - 特殊モード
    - 640×480
    - 720×480
    - 480P
  - 自動同期調整 [ON/OFF]
  - 入力信号確認
    - 解像度 640×480
    - 水平周波数 31 KHz
    - 垂直周波数 60 Hz
- オプション（66ページ）
  - デジタルシフト -30 ↔ +30 ＊
  - 字幕調整 -10 ↔ +10 ＊
  - 標準
  - ランプ使用時間
  - OSD表示 [ON/OFF]
  - 入力信号タイプ
    - RGB入力
    - 色差入力
  - 無信号時画面
    - ブルーバック
    - 画面表示なし
  - 無信号時自動電源オフ [ON/OFF]
  - メニュー位置
    - 中央
    - 右上
    - 右下
    - 左上
    - 左下
  - メニュー色
    - 不透明
    - 半透明
- 投映方式（71ページ）
  - フロント
  - 天吊り
  - リア
  - 天吊り+リア

＊ キーストーン補正を行うと調整できません。

- チャートに示された解像度、垂直周波数、水平周波数の値は例として表示しています。
- 入力2モードの「映像調整」で「色の濃さ」「色あい」「画質」は入力信号タイプが「色差入力」に設定されているとき表示できる調整項目です。
- 「入力信号タイプ」は、入力2モードでのみ表示されます。
- 色差信号では、「同期調整」の「クロック」「水平位相」「水平位置」「垂直位置」は調整できません。

■入力3/4モードのとき

メインメニュー　サブメニュー

- 映像調整 (58ページ)
  - コントラスト -30 ↔ +30
  - 明るさ -30 ↔ +30
  - 色の濃さ -30 ↔ +30
  - 色あい -30 ↔ +30
  - 画質 -30 ↔ +30
  - 赤 -30 ↔ +30
  - 青 -30 ↔ +30
  - 標準
  - 色温度
    - 5500k
    - 6500k
    - 7500k
    - 8500k
    - 9300k
    - 10500k
  - ガンマ
    - 標準
    - 暗部階調
    - 明部階調
    - ハイライト
  - ホワイトエンハンス [ON/OFF]
  - 調整値メモリー
    - ポジション 1
    - ポジション 2
    - ポジション 3
    - ポジション 4
    - ポジション 5
    - ポジションOFF
- 音声調整 (62ページ)
  - 音量
  - バランス
  - 標準
- オプション (66ページ)
  - デジタルシフト -30 ↔ +30 *
  - 字幕調整 -10 ↔ +10 *
  - 標準
  - ランプ使用時間
  - OSD表示 [ON/OFF]
  - 映像信号方式
    - Auto
    - PAL
    - NTSC3.58
    - SECAM
    - NTSC4.43
    - PAL−M
    - PAL−N
    - PAL−60
  - 無信号時画面
    - ブルーバック
    - 画面表示なし
  - 無信号時自動電源オフ [ON/OFF]
  - メニュー位置
    - 中央
    - 右上
    - 右下
    - 左上
    - 左下
  - メニュー色
    - 不透明
    - 半透明

メインメニュー

- 投映方式 (71ページ)
  - フロント
  - 天吊り
  - リア
  - 天吊り+リア

＊　キーストーン補正を行うと調整できません。

- 「PAL」「SECAM」「PAL-M」「PAL-N」「PAL-60」の信号では、「映像調整」の「色あい」は調整できません。

映像を調整する

見やすい映像に調整する

メモ

- 映像調整メニューで設定する内容を保存しておきたい場合は、先に調整値メモリー（ポジション1～5）を選択してください。（**61**ページ）

メニュー画面で映像調整メニューを選び設定する

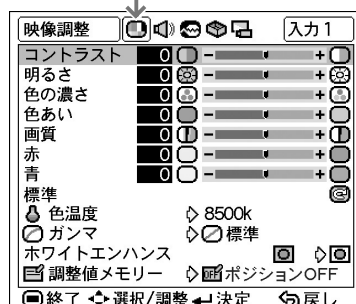
メニュー画面の操作方法については、52ページをご覧ください。

このアイコンを選択

調整項目	状　　態	◁ボタン	▷ボタン
コントラスト	コントラストが強いとき、または弱いとき	弱くする	強くする
明るさ	画像が明るすぎるとき、または暗すぎるとき	暗くなる	明るくなる
色の濃さ※	色が濃いとき、またはうすいとき	うすい色になる	濃い色になる
色あい※	色あいを調整したいとき	紫がかる	緑がかる
画質※	画像の輪郭をくっきりさせたいとき、またはやわらかくしたいとき	やわらかくする	くっきりする
赤	赤みを強くしたいとき、または弱くしたいとき	赤みが弱くなる	赤みが強くなる
青	青みを強くしたいとき、または弱くしたいとき	青みが弱くなる	青みが強くなる
標準	上記の調整項目を工場出荷時の状態に戻します。	—	

※の項目は、入力2モードの「入力信号タイプ」が「色差入力」に設定されているときに調整できる項目です。

お知らせ

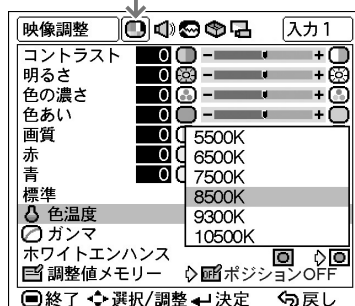
- INPUT（入力）2を選んでいるとき、「入力信号タイプ」が「RGB入力」のときは「色の濃さ」「色あい」「画質」は、表示されません。
- INPUT（入力）3またはINPUT（入力）4を選んでいるとき、「PAL」「SECAM」「PAL-M」「PAL-N」「PAL-60」の信号では、「色あい」は調整できません。
- 設定を工場出荷時の状態に戻したいときは、「標準」を選び ENTER を押します。

色温度を設定する

色温度の数値を高い方にしていくと青みがかった映像に、数値を低い方にしていくと赤みがかった映像になります。

メニュー画面で映像調整メニューの「色温度」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
5500k	赤みがかった映像になります。（温かい感じの色にしたいとき）
6500k	↕
7500k	
8500k	
9300k	青みがかった映像になります（冷たい感じの色にしたいとき）
10500k	

このアイコンを選択

ガンマ補正を設定する

映像の違いや、部屋の明るさの違いにより映像が見えにくい場合は、ガンマ補正機能を使って見やすくできます。映画やコンサートなど暗いシーンの多い映像を見たり、明るい部屋で映像を見たりする場合は、この機能を使うと、暗いシーンを明るくするなど、より見やすい映像が楽しめます。

メニュー画面で映像調整メニューの「ガンマ」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

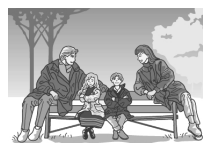
選択項目	内　容
標準	－
暗部階調	画面の暗い部分の階調表現を強調して豊かにします。
明部階調	中間から高輝度の部分の階調表現を強調して豊かにします。
ハイライト	画像の暗い部分の輝度を高め、少し照明の残った部屋で画像を見やすくします。

このアイコンを選択

標準

暗部階調

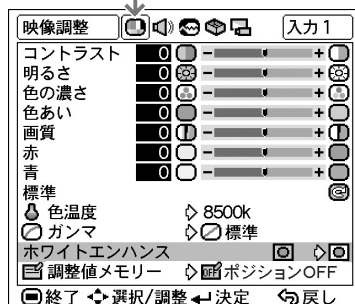
明部階調

ハイライト

ホワイトエンハンスを設定する

映像のうちの高輝度部分を強調することができます。

メニュー画面で映像調整メニューの「ホワイトエンハンス」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
[切アイコン]	ホワイトエンハンス機能が「切」になります。
[入アイコン]	ホワイトエンハンス機能が「入」になります。

画面調整の内容を登録する

映像調整メニューで設定する内容を登録することができます。登録した内容は、入力モードや入力信号タイプに関係なく、後から呼び出して使用することができます。

■ 登録するとき

映像調整メニューで設定する前に、登録するポジションを選択しておきます。

メニュー画面で映像調整メニューの「調整値メモリー」を選びポジション番号を選択する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
ポジション1 ～ ポジション5	映像調整メニューのすべての項目の調整値が選択したポジションに登録されます。 登録された調整値は、どの入力モードからでも呼び出すことができます。
ポジションOFF	各入力モードごとの個々の映像調整値としてそのまま記憶されます。ここで記憶された調整値は、他の入力モードを選択した場合には反映されません。

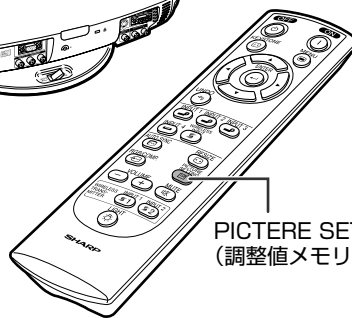
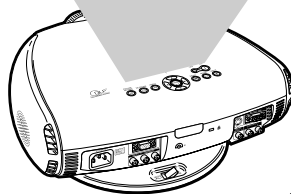
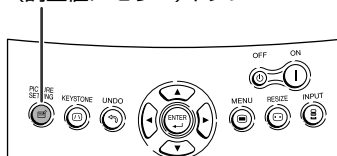
■ 登録した内容を呼び出すとき

登録したポジションを選択すると、映像調整メニューの内容は登録されているポジションの内容に変わります。

メモ

- PICTURE SETTING ボタンを押すと、ダイレクトに「調整値メモリー」の内容を選択することもできます。押すたびに、「ポジション1」～「ポジション5」、「ポジションOFF」の順で切り換わります。

■ 登録した内容を変更するとき

内容を変更するポジションを選択してから、映像調整メニューの内容を変更します。

音声を調整する

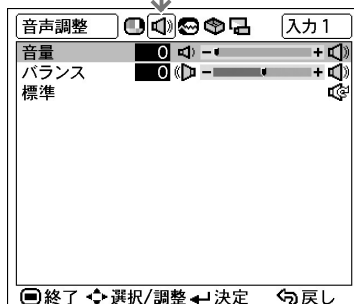
音量を調整する

本体操作で音量を調整するときは、メニュー画面で調整します。

メニュー画面で音声調整メニューの「音量」を選び調整する

メニュー画面の操作方法については、52ページをご覧ください。

調整方向	内　容
＋側	音量が大きくなる
−側	音量が小さくなる

このアイコンを選択

音声バランスを調整する

左右のスピーカーからの音声バランスを調整することができます。

メニュー画面で音声調整メニューの「バランス」を選び調整する

メニュー画面の操作方法については、52ページをご覧ください。

調整方向	内　容
＋側	右スピーカーからの音が強くなる
−側	左スピーカーからの音が強くなる

このアイコンを選択

メモ

• 設定を工場出荷時の状態に戻したいときは「標準」を選び ENTER を押します。

コンピュータの映像を調整する

縦縞模様やチラツキが気になるときは同期調整してください。

自動同期調整がOFFのとき

自動同期調整がOFFのときにタイルパターン・縦縞模様などを投映すると、チラツキや縦縞が出るなど、映り具合が悪くなることがあります。その場合は、「クロック」「水平位相」「水平位置」「垂直位置」の項目を選び、画面を調整してください。

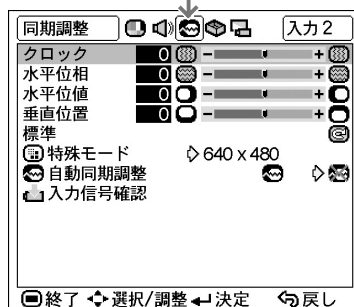
メニュー画面で同期調整メニューの「クロック」、「水平位相」、「水平位置」、「垂直位置」を選び調整する

メニュー画面の操作方法については、52ページをご覧ください。

調整項目	内　容
クロック	垂直ノイズを調整する
水平位相	水平ノイズを調整する（トラッキング調整）
水平位置	スクリーン上の映像を左右に移動させる
垂直位置	スクリーン上の映像を上下に移動させる
標準	上記の調整内容を工場出荷時の設定に戻す

メモ

- コンピュータの映像は AUTO SYNC を使うと、簡単に調整できます。くわしくは**65**ページをご覧ください。
- 色差信号では、これらの項目を調整できません。

このアイコンを選択

コンピュータの映像を調整する（つづき）

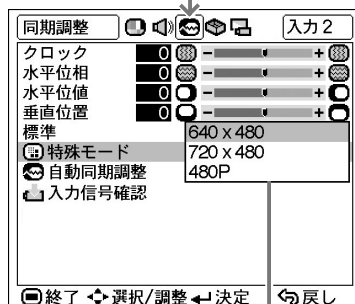
特殊モード調整

通常、入力信号の種類が判別されると、自動的に正しい解像度モードが選択されますが、信号の種類によっては、コンピュータの表示モードに合わせる設定を行う必要があります。

メニュー画面で同期調整メニューの「特殊モード」を選び解像度を設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

メモ

- コンピュータの一行おきに繰り返されるパターン（水平方向の縞模様）を表示させないでください。（チラツキがおこり、画面が見にくくなります。）
- 525P(プログレッシブ）出力のDVDプレーヤーや、デジタルビデオを接続したときは、480Pを選択してください。
- 現在選択されている入力信号の情報を確認する場合は、**65**ページの「入力信号情報を表示する」をご覧ください。

自動同期調整

コンピュータの画面を自動調整します。
プロジェクターがコンピュータに接続されている状態で信号を切り換えたときに、自動同期調整をするかしないかを選択することができます。

メニュー画面で同期調整メニューの「自動同期調整」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
(アイコン)	自動同期調整が働きます。
(アイコン)	自動同期調整は働きません。

お知らせ

同期調整を手動で行うとき

- 自動同期調整で良好な画面が得られないときは、手動で同期調整をしてください。（**63**ページをご覧ください。）
- プロジェクターに接続されたコンピュータの画面によっては、同期調整を完了するまで、しばらく時間がかかることがあります。

メモ

- 自動同期調整は、リモコンのAUTO SYNCを押しても働きます。

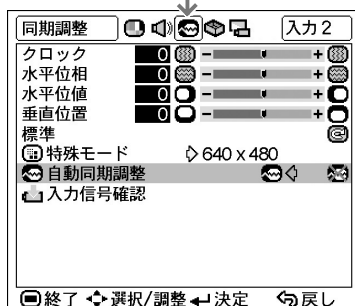
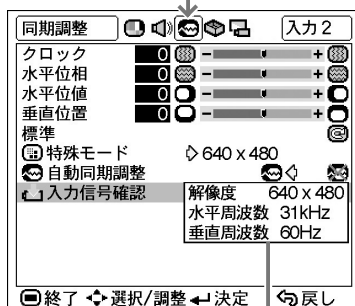
入力信号情報を表示する

この機能を使って、現在選択されている入力信号の情報を確認できます。

メニュー画面で同期調整メニューの「入力信号確認」を選び確認する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

メモ

- 本機はDVDプレーヤーやデジタルビデオなど、AV機器から入力されるコンポーネント（色差）信号に対し、有効走査線数を表示します。表示は右のようになります。

入力信号と本機の表示

入力信号に対し、本機は有効走査線数を表示します。

入力信号	本機の表示
525I	480I
525P	480P
750P	720P
1125I	1080I

映像や字幕の位置を調整する

映像の位置や字幕の位置を、垂直方向に調整できます。

映像の位置を垂直方向に調整する

投映した映像を上下に移動することができます。

メニュー画面でオプションメニューの「デジタルシフト」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、52ページをご覧ください。

調整方向	内　容
＋側	映像が上に移動します。
ー側	映像が下に移動します。

メモ

- 設定を工場出荷時の状態に戻したいときは「標準」を選び ENTER を押します。
- キーストーン補正を行うと、デジタルシフトは調整できません。

字幕が映るように調整する

洋画などを投映しているときに字幕がスクリーンからはみ出してしまう場合などは、「字幕調整」を行い、縦方向の画面サイズを調整することができます。

メニュー画面でオプションメニューの「字幕調整」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、52ページをご覧ください。

調整方向	内　容
＋側	縦方向に拡大されます。
ー側	縦方向に圧縮されます。

メモ

- 字幕調整の設定で画面を変更すると、画面の下部が上がるだけでなく、画面の上部もある程度まで変わります。
- 字幕調整の設定は、デジタルシフトの機能を使うとより効果的に調整できます。
- 設定を工場出荷時の状態に戻したいときは「標準」を選び ENTER を押します。
- キーストーン補正を行うと、字幕調整はできません。

ランプの使用時間を確認する

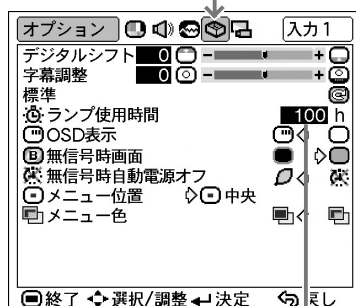
ランプ使用時間を確認する

ランプの使用時間が表示されます。

メニュー画面でオプションメニューを選び「ランプ使用時間」を確認する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

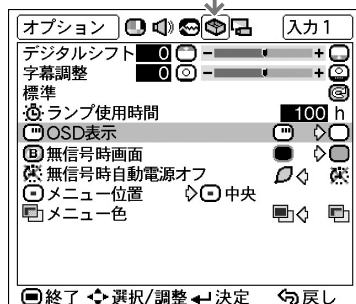
メモ

- ランプは、約2,400時間の使用で交換することをおすすめします。
  ランプの交換は、お買いあげの販売店、またはもよりのお客様相談センター（**84**ページ）にお問い合わせください。

画面表示を設定する

画面表示を消す

この機能を使うと、画面の表示を消すことができます。メニューで「OSD表示」を「▢」に設定すると、INPUT（入力切換）ボタンを押しても、「入力１」などの画面表示が表れません。

メニュー画面でオプションメニューの「OSD表示」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
（アイコン）	画面表示のすべてが表示されます。
▢	入力表示は表示されません。

調整・設定をする

信号の種類を設定する

入力信号を設定する

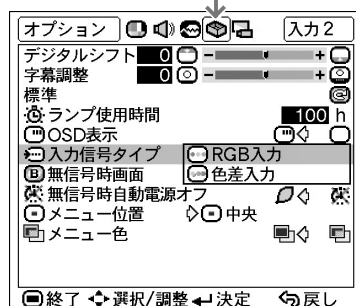
INPUT（入力）2端子に接続した機器の入力信号に合わせてRGBかコンポーネント（色差）を選択します。

入力2モードのメニュー画面でオプションメニューの「入力信号タイプ」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
RGB入力	RGB信号を入力したときに設定します。
色差入力	コンポーネント（色差）信号を入力したときに設定します。

メモ

- 「入力信号タイプ」画面は、RGB/COMP. を押しても切り換えできます。（入力2モードでのみ働きます。）

無信号時に表示する画面を設定する

無信号時画面を設定する

プロジェクターに信号が送られていないとき、表示する画面を選ぶことができます。

メニュー画面でオプションメニューの「無信号時画面」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
（青）	青い画面（ブルーバック）になる
（黒）	黒い画面※になる

※入力信号がスノーノイズのときは、そのままスノーノイズの画面になります。

再生する機器に合わせた映像信号方式を設定する

映像信号方式は工場出荷時、「Auto」に設定されています。しかし「Auto」では映像信号方式の違いにより、INPUT（入力）3端子またはINPUT（入力）4端子に接続したAV機器の映像が鮮明に投映できない場合があります。そのようなときは、映像信号方式を切り換えてください。

映像信号方式を設定する

入力3モード、または入力4モードのメニュー画面でオプションメニューの「映像信号方式」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

PAL	PAL方式の映像機器を接続したとき
NTSC4.43	PAL方式の機器でNTSCの方式の映像を再生したとき
SECAM	SECAM方式の映像機器を接続したとき
NTSC3.58	NTSC方式の映像機器を接続したとき

メモ

- 映像信号方式は、入力3、入力4モード以外では設定できません。
- 「Auto」は、PAL-MとPAL-Nには対応していません。入力信号がPAL-MまたはPAL-Nのときは、「映像信号方式」をそれぞれの入力信号に切り換えてください。

無信号時に自動的に電源が切れるように設定する

無信号時に電源を切る

15分以上入力信号が検出されないとプロジェクターの電源が自動的に切れるように、設定することができます。

メニュー画面でオプションメニューの「無信号時自動電源オフ」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
	無信号時自動電源オフ機能が働きます。
	無信号時自動電源オフ機能が働かなくなります。

メモ

無信号時自動電源オフ機能が「(入)」に設定されているとき、電源が切れる5分前になると、1分ごとに「○分後に電源オフ」の表示がでます。

このアイコンを選択

5分後に電源オフ

メニューの位置と色を設定する

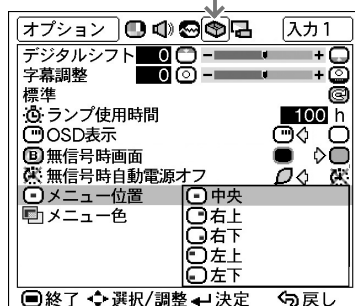
メニューの位置を設定する

メニュー画面をスクリーンのどこに表示させるのかを設定できます。

メニュー画面でオプションメニューの「メニュー位置」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
中央	スクリーン中央にメニュー画面が表示されます。
右上	スクリーン右上にメニュー画面が表示されます。
右下	スクリーン右下にメニュー画面が表示されます。
左上	スクリーン左上にメニュー画面が表示されます。
左下	スクリーン左下にメニュー画面が表示されます。

このアイコンを選択

メニューの色を設定する

メニュー表示を不透明にするのか半透明にするのか選択できます。

メニュー画面でオプションメニューの「メニュー色」を選び設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	内　容
	メニュー表示内の背景色が青くなります。
	メニュー表示内が半透明になります。

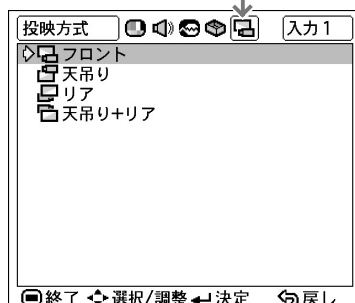
映像を左右反転／上下反転する

このプロジェクターは映像左右／上下反転機能を備えており、投映された映像を左右反転･上下反転することができ、いろいろな対応が可能です。

投映方式の設定

メニュー画面で投映方式メニューを設定する

メニュー画面の操作方法については、54ページをご覧ください。

選択項目	画　面
フロント	通常映像
天吊り	上下反転された映像
リア	左右反転された映像
天吊り＋リア	左右／上下反転された映像

- この機能はプロジェクターを逆映像設定したり、天井に取り付ける場合に使用します。設置方法については**26**ページをご覧ください。

より詳細に映像を調整する（プロメニュー）

赤・緑・青の加減を調整して、更に詳細に映像調整をすることができます。
ここで設定した調整値は、すべての入力モードに反映されます。

プロメニューを設定する

ENTER → ENTER → UNDO → UNDO → ENTER → ENTER → MENU **と押す**

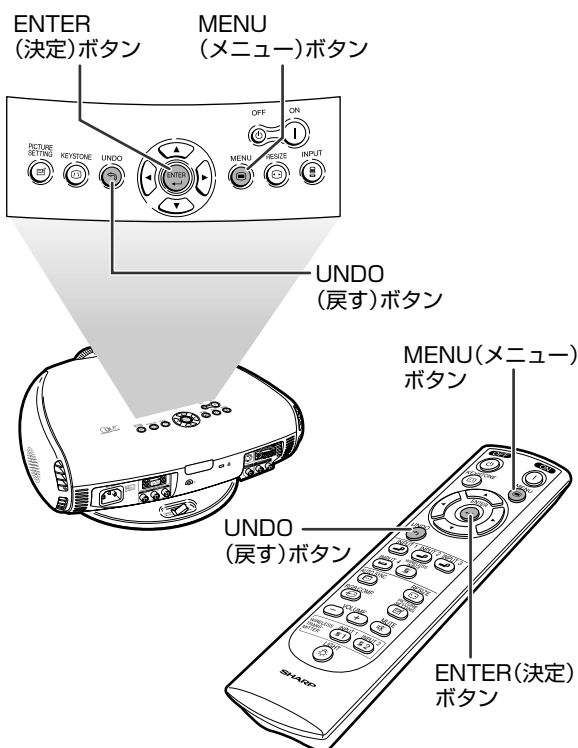
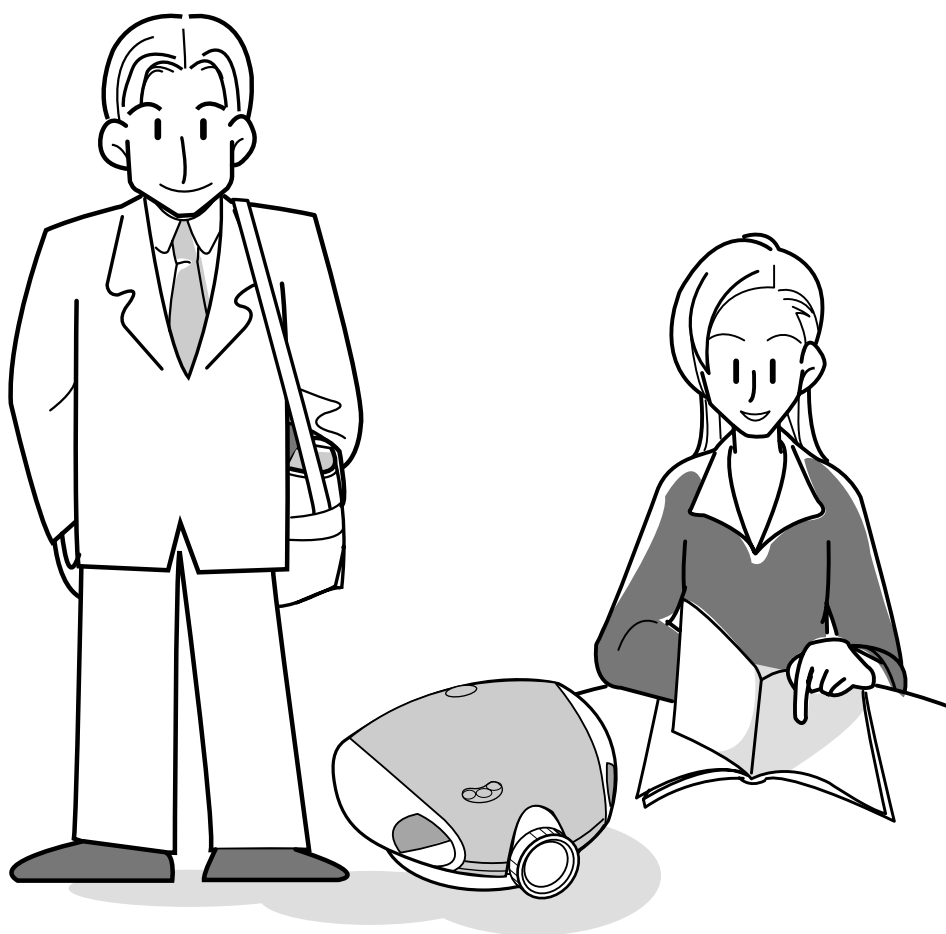
プロメニュー画面が表示されます。

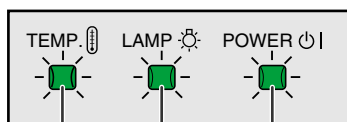
メニュー画面の操作方法については、52ページをご覧ください。

調整項目	◀ ボタン	▶ ボタン
赤コントラスト	赤の成分のコントラストを弱くします。	赤の成分のコントラストを強くします。
緑コントラスト	緑の成分のコントラストを弱くします。	緑の成分のコントラストを強くします。
青コントラスト	青の成分のコントラストを弱くします。	青の成分のコントラストを強くします。
赤 明るさ	赤の成分の明るさを下げます。	赤の成分の明るさを上げます。
緑 明るさ	緑の成分の明るさを下げます。	緑の成分の明るさを上げます。
青 明るさ	青の成分の明るさを下げます。	青の成分の明るさを上げます。
標準	上記の設定項目を工場出荷時の状態に戻す	

プロメニュー画面を消すときはMENUを押します。

メモ

- 映像調整メニューで「標準」を設定すると、プロメニューの全ての項目は工場出荷時の状態に戻ります。

付録

お知らせ表示について

■本機では、内部の異常をお知らせ表示が点灯してお知らせします。
■内部に異常が生じると、その異常の現象によって、温度モニターお知らせ表示もしくはランプ交換お知らせ表示が赤色に点灯し電源が切れます。以下の処置を行ってください。

ランプ交換お知らせ機能について

■ランプの総使用時間が2,400時間を超えると、画面に黄色で“ランプ”が表示され、2,500時間になると“ランプ”表示が赤になり、自動的にランプ（光源）が消灯し、電源が切れます。このとき、ランプ交換お知らせ表示が赤色点灯します。

ランプ

■ランプを交換せずに電源を入れ直すと、4回目からは電源が入らなくなりますのでご注意ください。

温度モニター機能について

設置状況や吸気孔の目づまり等により内部温度が高温になると、画面左下に“温度”が点滅します。さらに温度が上昇すると、ランプが消灯し温度表示が点滅、90秒のファン冷却後電源が切れます。“温度”の表示が出た時点で下の表の内容に従い処置をしてください。

お知らせランプ	正　常	異　常	現　　象	考えられる原因	処置のしかた
温度モニター お知らせ表示	消　灯	赤色点灯 電源・切	内部温度が高温になっている。	●通風孔がふさがれている。	●正しい設置場所に設置してください。
				●吸気孔の目づまり	●**81**ページの手順に従って吸気孔の手入れをしてください。
				●冷却ファンの故障 ●内部回路の故障	●販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
ランプ交換 お知らせ表示	緑色点灯（緑色点滅は光源起動中）	赤色点灯	ランプ交換時期	●ランプの使用時間が2,400時間を超えた	●ランプの交換または修理を販売店またはもよりの修理相談センター（**84**ページ）にお問い合わせください。 ●ランプを交換するときは、注意して行ってください。（**75**ページ）
		赤色点灯 電源・切	ランプが点灯しない	●ランプ（光源）が切れた ●ランプ（光源）点灯回路故障	

お知らせ

- 温度モニターお知らせ表示が点灯し電源が切れ、上記の処置を行った後、再度電源を入れる場合は、内部温度が十分に下がるまで待ち、電源プラグをいったんコンセントから抜いて電源を入れ直してください。（約5分以上）
- 一般の停電などで、電源が切れた直後に電源が入った場合、ランプ交換お知らせ表示が赤色点灯し電源が入らなくなることがあります。このときは、電源プラグをいったんコンセントから抜いて、電源を入れ直してください。
- プロジェクターの動作中に吸気孔の掃除を行う場合は、OFF を押して電源を切った後、冷却ファンが止まるまで待ってから行ってください。
- 電源を切った後、冷却ファンが動作している間（約90秒間）は、電源プラグを抜いたりしないでください。

ランプについて

ランプについて

■ 光源として使われているランプは消耗品です。ランプの平均寿命は、のべ使用時間が約2,500時間です。2,400時間を超えたら、なるべく早めに新しいランプ（別売）と交換してください。2,400時間を超えなくても使用中にランプが切れることがありますので、映像が暗くなったり、色あいが悪くなったりした場合は、早めに新しいランプと交換してください。ランプの総使用時間は画面表示で確認できます。（**67**ページ参照）

■ ランプの保証期間は、6ヵ月1,000時間以内です。6ヵ月以内でも1,000時間を超えたり、1,000時間以内でも6ヵ月を過ぎたときは、保証の対象となりませんのでご注意ください。

■ ランプ（別売）は、シャープエンジニアリング（株）の製品です。

■ ランプの取り替えは、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様相談センター（**84**ページ）にお問い合わせください。

- プロジェクターの使用環境によっては、ランプの寿命は2,500時間以下になることがあります。

警告

- ランプの強い光は視力障害などの原因となります。プロジェクターが動作しているときは、プロジェクターのレンズや強い光が出ているすき間をのぞきこまないでください。

ランプ使用上のご注意

■ プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプが使われています。当ランプは衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりする特性があります。
また、当ランプは、個体差や使用条件によって破裂や不点灯にいたるまでの時間に大きな差があります。

■ 「ランプ交換お知らせ表示」が点灯した場合は、ランプが正常に点灯している状態でも、すみやかに新しいランプと交換してください。

■ 当ランプが破裂したときは、プロジェクター内部にガラス片が散乱している可能性がありますので、サービスマンまたは販売店にランプの交換と内部の点検を依頼してください。

警告

- **当ランプが破裂したとき、ランプハウスにガラスの破片が飛び散ったり、ランプ内部のガスがプロジェクターの排気孔から出たりすることがあります。当ランプ内部のガスには水銀が含まれていますので破裂した場合は十分な換気をしてください。万一吸い込んだり、目に入ったり口に入った場合には、すみやかに医師にご相談ください。**

ランプを交換する

警告

- ランプ交換ユニットは、操作直後にプロジェクターから取り外さないでください。ランプが高温になっていることがあり、やけどの原因となります。

- ランプ交換ユニットを取り外すときは、電源コードを抜いて少なくとも1時間以上放置し、ランプ交換ユニットの表面が完全に冷めたことを確認してから行ってください。

■ 新しいランプ交換ユニットに交換後、ランプが点灯しない場合には、お近くの販売店にご連絡ください。BQC-XVZ90+++1に対応したランプ交換ユニットをお近くの販売店でご購入ください。ランプ交換は、**76**ページで説明している操作手順に従い注意して行ってください。なおランプ交換は、お客様のご希望によりお近くの販売店で行うことも可能です。

つづく

ランプについて（つづき）

ランプ交換ユニットの取り外しと取り付け

お知らせ

- 取っ手をつかんで、ランプ交換ユニットを取り外してください。ランプ交換ユニットのガラス表面やプロジェクター本体の内部には触れないでください。
- けがやランプの破損を防ぐため、手順にそって作業を行ってください。
- ランプ交換ユニットカバー以外のネジは絶対に外さないでください。
- ランプ交換ユニットに付属されているランプ交換説明書も合わせてご覧ください。

1 本体のを押しプロジェクターの電源を切る

- 冷却ファンが止まるまで待ちます。

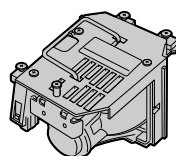
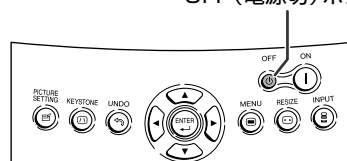
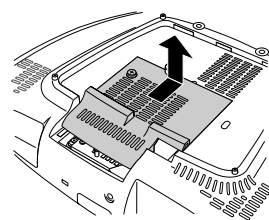
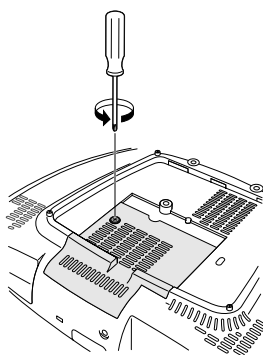
警告

- ランプ交換ユニットは、操作直後にプロジェクターから取り外さないでください。ランプが高温になっていることがあり、やけどの原因となります。

2 電源コードをプロジェクターから取り外す

- 電源コードをAC電源ソケットからはずします。
- **ランプ交換ユニットが十分冷えるまで（約1時間）放置します。**

3 回転スタンドを取り外した後、ランプ交換ユニットカバーを取り外す

- プロジェクターを裏返しにして、ランプ交換ユニットカバーを固定しているユーザーサービスネジをゆるめます。その後、矢印の方向にカバーをスライドさせます。

4 ランプ交換ユニットを取り外す

- 固定ネジをランプ交換ユニットから取り外します。取っ手をつかみ、ランプ交換ユニットを矢印の方向に引き出します。

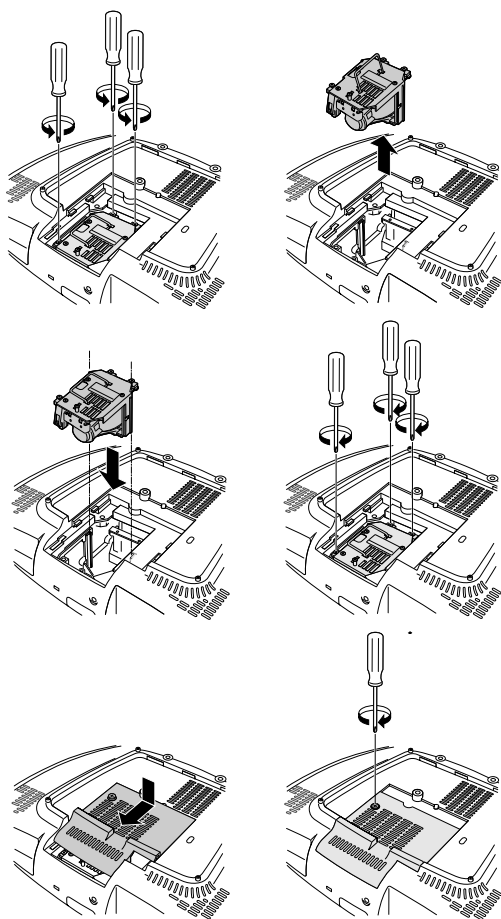
5 新しいランプ交換ユニットを挿入する

- ランプ交換ユニットをしっかりとランプ交換ユニット収納部に押し込みます。固定ネジをしめます。

6 ランプ交換ユニットカバーを取り付ける

- 矢印の方向にランプ交換ユニットカバーをスライドさせます。その後、ユーザーサービスネジをしめます。

お知らせ

- ランプ交換ユニットカバーが正しく取り付けられていないと、本体の電源コードを接続しても、電源が入りません。

ランプ使用時間（タイマー）をリセットする

ランプ交換を行ったときは、ランプ使用時間（タイマー）をリセットしてください。

1 電源コードをプロジェクターに接続する

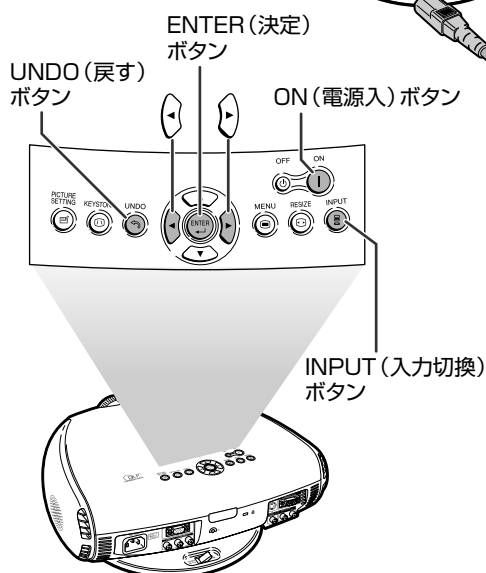
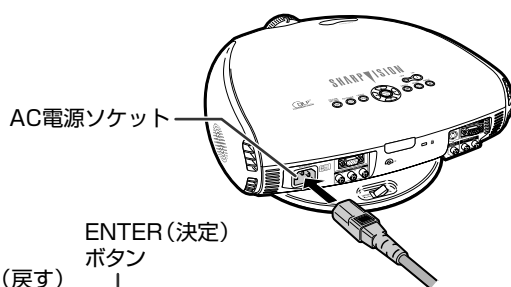
- 電源コードをプロジェクターのAC電源ソケットに接続します。

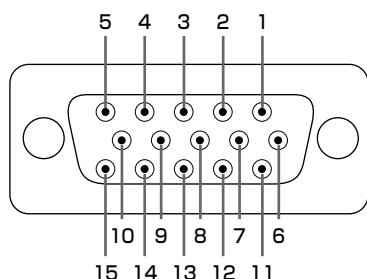
2 ランプ使用時間タイマーをリセットする

- プロジェクター本体の ON、INPUT、UNDO、◀、ENTER、▶、を順番に押します。その後、ON を押します。
- ランプ使用時間（タイマー）がリセットされ、「LAMP 0000H」が表示されます。

お知らせ

- ランプ使用時間のリセットは、ランプ交換時以外は行わないでください。リセットをして、規定以上ランプを使用すると破裂や故障の原因となります。

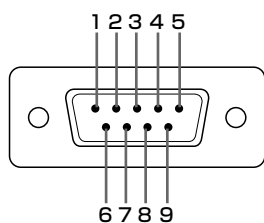
付録

本体のコネクタのピン配置

コンポーネント／RBG入力2端子：15ピンミニD-subコネクタ（メス）

・RGB入力

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1.	映像入力（赤）	8.	接地（映像青）
2.	映像入力（緑）/グリーンオンシンク	9.	NC
3.	映像入力（青）	10.	接地
4.	予備入力	11.	接地
5.	複合同期信号	12.	データ
6.	接地（映像赤）	13.	水平同期信号
7.	接地（映像緑）/グリーンオンシンク	14.	垂直同期信号
		15.	クロック

・コンポーネント入力

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1.	映像入力P_R（C_R）	8.	接地（P_B）
2.	映像入力Y	9.	NC
3.	映像入力P_B（C_B）	10.	NC
4.	NC	11.	NC
5.	NC	12.	NC
6.	接地（P_R）	13.	NC
7.	接地（Y）	14.	NC
		15.	NC

PCコントロールケーブル：RS-232Cコネクタ 9ピンD-subコネクタ（オス）

ピン番号	信号	信号名	I/O	備考
1	CD			NC
2	RD	受信データ	入力	内部回路に接続
3	SD	送信データ	出力	内部回路に接続
4	ER			内部回路に接続
5	SG	接地		内部回路に接続
6	DR			内部回路に接続
7	RS			内部回路に接続
8	CS			内部回路に接続
9	CI			NC

RS-232Cポート仕様

コンピュータによるプロジェクターの制御について

この操作システムはコンピュータを使い慣れた方のご利用をお願いいたします。

- プログラムを組むとRS-232Cコネクタを使って、コンピュータで本機を制御することができます。入力信号（コンピュータ／ビデオ）の切換えを制御できますので、プログラムによる自動上映が可能です。
- 接続には、市販または別売のRS-232Cケーブル（クロス・メスーメスタイプ）をご用意ください。

■通信仕様

- コンピュータ側のRS-232C通信仕様を、本機の通信仕様に合わせてください。
- 本機の仕様は、以下のとおりです。

ボーレート	9600bps
データ長	8ビット
パリティ	なし
ストップビット	1ビット
フロー制御	なし

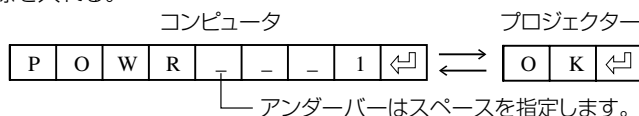
■通信手順

- コンピュータからRS-232Cコネクタを通じて、制御コマンドを送信します。本機は、送られたコマンドに応じて、動作し、レスポンスメッセージをコンピュータ側に送ります。
- 複数のコマンドを同時に送信しないでください。正常時のレスポンス（OK）を受け取ってから、次のコマンドを送信するようにしてください。

O K
リターンコード
（0DH）

- コンピュータからプロジェクターを制御する場合、プロジェクターは制御コマンドを受け取ると、一部の機能はOSDの表示をしないで実行されます。

受送信の例

- 電源を入れる。

コマンド一覧

"パラメータ"の中でアンダーバー（＿）で表記されている箇所はスペースを指定します。

制御項目	コマンド	パラメータ	リターン
電源「入」	POWR	_ _ _ 1	OK または ERR
電源「切」	POWR	_ _ _ 0	OK または ERR
入力1	IVED	_ _ _ 1	OK または ERR
入力2	IVED	_ _ _ 2	OK または ERR
入力3	IVED	_ _ _ 3	OK または ERR
入力4	IVED	_ _ _ 4	OK または ERR
ワイヤレス入力	IVED	_ _ _ 5	OK または ERR

付録

RGB入力信号（推奨信号）について

- 幅広い信号に対応
  水平周波数:15kHz ～ 70kHz
  垂直周波数:43Hz ～ 75Hz
  ドットクロック:12MHz ～ 110MHz
- シンクオングリーン信号とコンポジットシンク信号に対応。
- 高品位圧縮表示により、XGAに対応。

下表はVESA準拠モード一覧です。ただし本機はVESA規準以外の信号にも対応しています。

PC/MAC/WS	解像度		水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	VESA規格	ディスプレイ
PC	VGA	640 x 350	27.0	60		拡大表示
			31.5	70		
		720 x 350	27.0	60		
			31.5	70		
		640 x 400	27.0	60		
			31.5	70		
		720 x 400	27.0	60		
			31.5	70		
		640 x 480	26.2	50		
			31.5	60	X	
			34.7	70		
			37.9	72	X	
			37.5	75	X	
	SVGA	800 x 600	31.4	50		リアル表示
			35.1	56	X	
			37.9	60	X	
			44.5	70		
			48.1	72	X	
			46.9	75	X	
	XGA	1,024 x 768	35.5	43	X	高品位圧縮表示
			40.3	50		
			56.5	70	X	
			58.1	72		
	–	1,280 x 720	45.0	60		

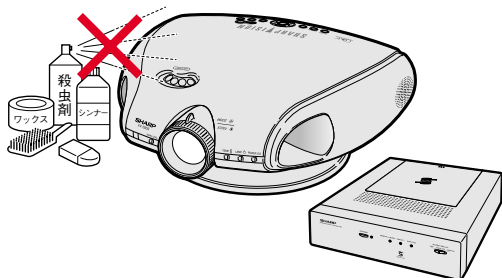
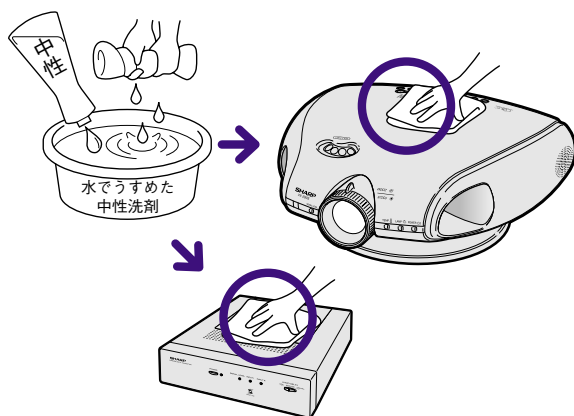
PC/MAC/WS	解像度		水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	VESA規格	ディスプレイ
PC/MAC 13"	VGA	640 x 480	34.9	67		拡大表示
MAC 16"	SVGA	832 x 624	46.8	75		高品位圧縮表示
			49.6	75		
PC/MAC 19"	XGA	1,024 x 768	48.4	60	X	
			60.0	75	X	

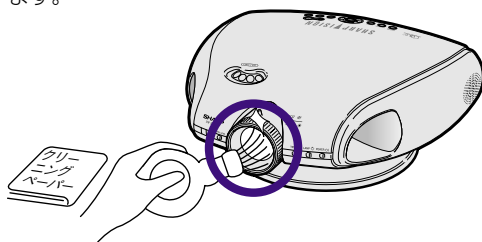
メモ

- 本機は、同時（CRT/LCD)モードでノート型コンピュータからの映像を表示できない場合があります。この場合は、ノート型コンピュータ側で液晶表示をオフにして"CRTのみ"モードで表示データを出力してください。表示モードを変更するための詳細はお持ちのノート型コンピュータの操作マニュアルに記載されています。

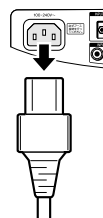
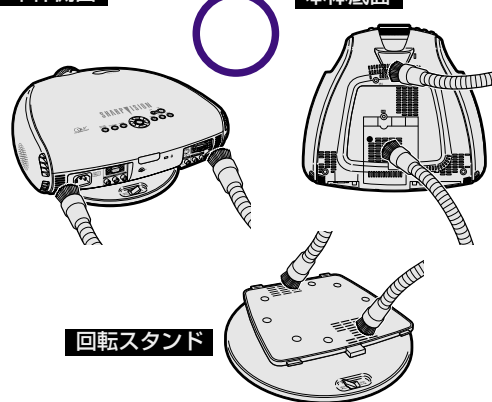
お手入れのしかた

キャビネットのお手入れのしかた

■ キャビネットを手入れするときは、必ず電源コードを抜いて行ってください。
■ キャビネットや操作パネル部分はプラスチックが多く使われています。ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。
■ 殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。
また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。
プラスチックのなかに含まれる可塑剤の作用により変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■ 汚れはネルなど柔らかい布で軽くふきとってください。
■ 汚れがひどいときは水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
強力な洗剤を使用した場合、変色、変質、塗料がはげる場合があります。目立たない場所で試してから、お手入れすることをおすすめします。

レンズのお手入れのしかた

■ レンズの清掃は、市販のブロワーやレンズクリーニングペーパー(メガネやカメラなどの清掃に使用)で行ってください。この際、液状のクリーニング剤は使用しないでください。表面のコーティング膜がはがれる原因となります。

吸気孔のお手入れのしかた

■ 吸気孔の清掃は、掃除機でゴミ、ホコリを吸い取ってください。
■ 吸気孔は、約100時間使用毎を目安に掃除を行ってください。特にほこりの多いところでは、こまめに掃除を行うようにしてください。

① 電源プラグをプロジェクターから抜く

② 吸気孔を掃除する
掃除機で吸気孔のほこりを吸い取ります。

ご注意

- プロジェクターの動作中に吸気孔の掃除を行う場合は、電源「切」ボタンを押して電源を切った後、冷却ファンが止まるのを待ってから行ってください。
- 電源を切った後、冷却ファンが動作している間（約90秒間）は、電源プラグを抜いたりしないでください。

付録

故障かな？と思ったら

こんなとき	ここをお調べください	ページ
映像が出ない	●電源プラグがコンセントから抜けていませんか。	28
	●接続した外部機器の電源が「切」の状態になっていませんか。	-
	●表示させる画面の選択（入力切換）がまちがっていませんか。	41
	●プロジェクター後面の配線は、正しく接続されていますか。	28～31
	●ノート型コンピュータを接続しているとき、外部出力状態に設定されていますか。 ●「コントラスト」と「明るさ」が最小の値に調整されていませんか。	- 58
色がうすい、色あいが悪い	●映像調整は、正しく調整されていますか。	58
	〈ビデオ入力のとき〉 ●ビデオの映像信号方式は正しく設定されていますか。 ●入力2の映像を投映しているときは、入力信号タイプのRGB/色差が正しく設定されていますか。	69 68
表示画面がでない	●OSD表示が「 」に設定されていませんか。	67
映像がボヤける ノイズが発生する	●レンズのフォーカスは合っていますか。	42
	●投映距離が、フォーカスの合う範囲を超えていませんか。	25
	〈コンピュータ入力のとき〉 ●同期調整(クロック調整)を行ってみてください。 ●同期調整(位相調整)を行ってください。 ●コンピュータによってはノイズが発生することがあります。	63 -
キャビネットから時々 「ピシッ」と音がする	●画面に異常がない場合、室温の変化によりキャビネットが、わずかに伸縮する音です。性能その他に影響はありません。	-
お知らせランプが点灯する	●「お知らせ表示について」をご覧ください。	74
リモコンが 正しく動作しない	●乾電池が消耗していませんか。 ●乾電池は正しく入っていますか。	18
冷却ファンの音が 急に大きくなる	●周囲温度が高くなっていませんか。 ●吸気孔の清掃を実施してください。	10 81
映像が暗い	●ランプ交換お知らせ表示ランプが赤色点灯していませんか。 赤色点灯しているときは、ランプを交換してください。	74
音声は出るが映像が出ない	●プロジェクター後面の配線は、正しく接続されていますか。	28～31
	●映像調整の「明るさ」が「−(マイナス)」側いっぱいになっていませんか。	58
映像は出るが音声が出ない	●プロジェクター後面の配線は、正しく接続されていますか。	28～31
	●音量が最小になっていませんか。	41、62

■ワイヤレス送信ユニット

こんなとき	ここをお調べください	ページ
映像にブロック状のノイズが出る。音が途切れる	●本機の使用する電波は、高い周波数を使用しているため、光と同じように直進、反射、屈折、回折、干渉等の性質をもっています。そのため、場所により電波の強弱が起こり、映像・音声が不鮮明になったり、揺れたり、止まったりすることがあります。 ●ワイヤレス送信ユニットとプロジェクターの距離が離れ過ぎていませんか。電波の届く範囲内でご使用ください。 ●電気雑音の発生しやすいところで使用していませんか。	11
突然映像が止まり、音声が途切れるようになった	●近くで同じ周波数帯（2.4GHz）を使用している無線通信機器（Bluetooth、無線LAN）や、電子レンジなどの機器が作動していませんか。 ●近くで携帯電話などの電波を使用した通信機器が作動していませんか?	- -
映像と音声が受信できない	●障害物と反射物の影響で電波状態の良い位置と悪い位置があります。プロジェクターまたはワイヤレス送信ユニットの位置を少し動かしてみてください。 ●ワイヤレス送信ユニットとプロジェクターは対になっており、お互いに識別しています。他に購入されたワイヤレスAV伝送システム対応の機器とは通信ができない仕組みになっています。 ●ワイヤレス送信ユニットの電源が切れていませんか。 ●電波の環境に応じて、電源を入れてから通信が開始されるまで時間がかかることがあります。	- - 46 -
ビデオコントロール機能が働かない	●ビデオコントローラーがワイヤレス送信ユニットから抜けていませんか。 ●ビデオコントローラーを取り付けるとき、ビデオコントローラー送信部がAV機器のリモコン受信部に確実に向いていることを確認してください。（AV機器のリモコン受信部位置については、お使いのAV機器の取扱説明書でご確認ください。） ●お使いのAV機器のリモコン受信部に直射日光や強い照明が当たっていると、リモコンが動作しにくくなります。AV機器の位置または照明の向きを変えてみてください。	34 34 -
映像に横縞のノイズが出るときがある ワイヤレス送信ユニットの近くに置いているテレビに横縞のノイズが出るときがある	●ワイヤレス送信ユニットの近くにアンテナ線が取り付けられているAV機器がありませんか。 ワイヤレス送信ユニットをAV機器のアンテナ入力端子から遠ざけてください。	34～35

付録

お客様ご相談窓口のご案内

修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買いあげの販売店へご連絡ください。

転居や贈答品などで、保証書記載の販売店にご相談できない場合は、下記窓口にご相談ください。

- 製品の故障や部品のご購入に関するご相談は …………… **修理相談センター** へ
- 製品のお取扱い方法、その他ご不明な点は ………………… **お客様相談センター** へ

修理相談センター

- **修理相談センター（沖縄・奄美地区を除く）**

■受付時間　＊月曜～土曜：午前9時～午後6時　＊日曜・祝日：午前10時～午後5時　（年末年始を除く）

0570 - 02 - 4649

当ダイヤルは、全国どこからでも一律料金でご利用いただけます。
呼出音の前に、NTTより通話料金の目安をお知らせ致します。

（注）　携帯電話・PHSからは、下記電話におかけください。

		<東日本地区>	<西日本地区>
○ 携帯電話／PHSでのご利用は ………………	一般電話	043 - 299 - 3863	06 - 6792 - 5511
○ FAXを送信される場合は ………………………	FAX	043 - 299 - 3865	06 - 6792 - 3221

○ 沖縄・奄美地区については、下表の「那覇サービスセンター」にご連絡ください。

◎ **持込修理および部品購入のご相談** は、上記「修理相談センター」のほか、下記地区別窓口にても承っております。

■受付時間　＊月曜～土曜：午前9時～午後5時30分（祝日など弊社休日を除く）
〔但し、沖縄・奄美地区〕は……＊月曜～金曜：午前9時～午後5時30分（祝日など弊社休日を除く）

担当地域	拠点名	電話番号	郵便番号	所在地
北海道地区	札幌サービスセンター	011-641-4685	〒063-0801	札幌市西区二十四軒1条7-3-17
東北地区	仙台サービスセンター	022-288-9142	〒984-0002	仙台市若林区卸町東3-1-27
関東地区	さいたまサービスセンター	048-666-7987	〒330-0038	さいたま市宮原町2-107-2
	宇都宮サービスセンター	028-637-1179	〒320-0833	宇都宮市不動前4-2-41
	東京テクニカルセンター	03-5692-7765	〒114-0013	東京都北区東田端2-13-17
	多摩サービスセンター	042-586-6059	〒191-0003	日野市日野台5-5-4
	千葉サービスセンター	047-368-4766	〒270-2231	松戸市稔台295-1
	横浜サービスセンター	045-753-4647	〒235-0036	横浜市磯子区中原1-2-23
東海地区	静岡サービスセンター	054-285-9340	〒422-8006	静岡市曲金6-8-44
	名古屋サービスセンター	052-332-2623	〒454-8721	名古屋市中川区山王3-5-5
北陸地区	金沢サービスセンター	076-249-2434	〒921-8801	石川郡野々市町御経塚町4-103
近畿地区	京都サービスセンター	075-672-2378	〒601-8102	京都市南区上鳥羽菅田町48
	大阪テクニカルセンター	06-6794-5611	〒547-8510	大阪市平野区加美南3-7-19
	神戸サービスセンター	078-453-4651	〒658-0082	神戸市東灘区魚崎北町1-6-18
中国地区	広島サービスセンター	082-874-8149	〒731-0113	広島市安佐南区西原2-13-4
四国地区	高松サービスセンター	087-823-4901	〒760-0065	高松市朝日町6-2-8
九州地区	福岡サービスセンター	092-572-4652	〒816-0081	福岡市博多区井相田2-12-1
沖縄·奄美地区	那覇サービスセンター	098-861-0866	〒900-0002	那覇市曙2-10-1

お客様相談センター

■受付時間　＊月曜～土曜：午前9時～午後6時　＊日曜・祝日：午前10時～午後5時　（年末年始を除く）

	TEL	FAX	所在地
東日本相談室	TEL 043 - 297 - 4649	FAX 043 - 299 - 8280	〒261-8520 千葉県千葉市美浜区中瀬1-9-2
西日本相談室	TEL 06 - 6621 - 4649	FAX 06 - 6792 - 5993	〒581-8585 大阪府八尾市北亀井町3-1-72

●所在地・電話番号などについては変更になることがありますので、その節はご容赦願います。（02.08）

アフターサービスについて

保証書（別添）

- 保証書は「お買いあげ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取ってください。保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

- **保証期間**
  - ● 光源(ランプ)以外の部品代および修理工料は、お買いあげの日から１年間は無料です。
  - ● 光源(ランプ)およびその修理工料は、お買いあげの日から６ヵ月は無料です。
（６ヵ月以内でも使用時間が1,000時間を超えているときは、保証の対象となりません。）

ご不明な点や修理に関するご相談は

- 修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口（**84**ページ）にお問い合わせください。

補修用性能部品の保有期間

- 当社は、プロジェクターの補修用性能部品を製造打切後、8年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは　出張修理

- 「故障かな？と思ったら」(**82**～**83**ページ)を調べてください。それでも異常があるときは、使用をやめて、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容

品　　　名：シアタープロジェクター
形　　　名：XV-Z90S
お買いあげ日：(年月日)
故障の状況：(できるだけ具体的に)
ご　住　所：(付近の目印も合わせてお知らせください。)
お　名　前：
電話番号：
ご訪問希望日：

保証期間中
修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

お客様へ…
お買いあげ日・販売店名を記入されると便利です。

お買いあげ日	販　売　店　名
年　　月　　日	電話（　　）　　―

お願い

ランプは消耗品です。使用中にランプが切れることがありますので、あらかじめご承知ください。映像が暗くなったり、色合いが悪くなるなどの症状がでたときは、早めにランプを交換してください。

愛情点検

長年ご使用のシアタープロジェクターの点検を
こんな症状はありませんか？
●電源コードやプラグが異常に熱い。●電源を入れても映像や音が出ない、また出るまでに時間がかかる。●画面が映ったり、消えたりする。●映像が乱れたり、色がきれいに出ない。●その他の異常や故障がある。

このような症状のときは本体の電源を切り、プラグをコンセントから抜き、使用を中止し、故障や事故の防止のため必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

仕様

本体

品名		シアタープロジェクター
形名		XV-Z90S
表示方式		単板DMD™ カラーホイール色分離方式
パネルサイズ		0.55 型　4：3 DLP™方式
画素数		480000（800×600）ドット
レンズ		1.2倍手動ズーム・フォーカス　F2.0〜2.4　f＝16.9〜20.2mm
ランプ		150 W
音声出力		2.0 W
スピーカー		8Ω φ30mm　2個
定格電圧		AC 100 V〜AC 240 V
定格周波数		50/60 Hz
消費電力		215 W（リモコン待機時 6 W）
使用温度範囲		5 ℃〜35 ℃
保管温度範囲		-20 ℃〜60 ℃
ビデオ入力対応		BSデジタルハイビジョン放送対応（525i/525p/750p/1125p） NTSC/PAL/PAL-M/PAL-N/SECAM
コンピュータ対応		解像度：VGA/SVGA/XGA
入力端子	コンポーネント入力	Y, P_B, P_R：RCAピン端子（INPUT1）
		15ピンミニD-sub端子（INPUT2）
	コンピュータRGB入力	RGB分離型アナログ信号：15ピンミニ D-sub端子（INPUT2）
	ビデオ入力	S映像入力端子（INPUT3）：4ピンミニDINコネクタ
		ビデオ入力端子（INPUT4）：RCAピン端子
	音声入力	アナログ　左・右（INPUT1〜4共用）：RCAピン端子
RS-232C端子		9ピンミニD-sub端子
リモコン受光部		前面×1、背面×1
キャビネット		プラスチック
外形寸法		幅 368 mm、高さ 153.8 mm、奥行 327　mm （回転スタンド付）（突起部除く）
質量		約 4.5 kg（回転スタンド付）

＜付属品＞ •リモコン　•単3乾電池×2本　•レンズキャップ（装着出荷）　•レンズキャップストラップ　•電源コード
•取扱説明書（本書）　•保証書　•ワイヤレス送信ユニット
•ワイヤレス送信ユニット用ACアダプター
•ワイヤレス送信ユニット用ビデオコントローラー　•天吊り時用遮光板

ワイヤレス送信ユニット

項目		仕様	
変調方式		DS-SS（IEEE802.11b準拠）	
搬送周波数帯		2.4GHz帯	
使用場所		屋内（通信の環境により伝送距離が短くなることがあります）	
ビデオ対応入力		525 i、NTSC	
接続端子	入力	コンポーネント入力	Y, P_B, P_R（1系統）：RCAピン端子 音声入力［アナログ　左・右（1系統）］：RCAピン端子
		ビデオ入力	S映像入力端子（1系統）：4ピンミニ DINコネクタ ビデオ入力端子（1系統）：RCAピン端子 音声入力［アナログ　左・右（1系統）］：RCAピン端子
	スルー出力	コンポーネント出力	Y, P_B, P_R（1系統）：RCAピン端子 音声出力［アナログ　左・右（1系統）］：RCAピン端子
		ビデオ出力	S映像出力端子（1系統）：4ピンミニ DINコネクタ ビデオ出力端子（1系統）：RCAピン端子 音声出力［アナログ　左・右（1系統）］：RCAピン端子
	音声ディレイ出力	アナログ　左・右（1系統）：RCAピン端子	
		光デジタル（1系統）	
	その他の端子	ビデオコントローラー端子	
定格電圧		DC9V	
消費電力		8W（ワイヤレス送信ユニット本体）、9.8W（同梱のACアダプター使用時）	
外形寸法		幅215mm、奥行き250mm、高さ55mm（突起部含まず）	
質量		約960g	
ACアダプター		入力：AC100V　50/60Hz	
		出力：DC9V　2.0A	

お願い

- **DMD™素子は非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。**
- **ランプは消耗品です。使用中にランプが切れることがありますので、あらかじめご了承ください。映像が暗くなったり、色合いが悪くなるなどの症状がでたときは、早めにランプを交換してください。**

寸法図

■プロジェクター

背面

左側面

上面

右側面

327

118

153.8

前面

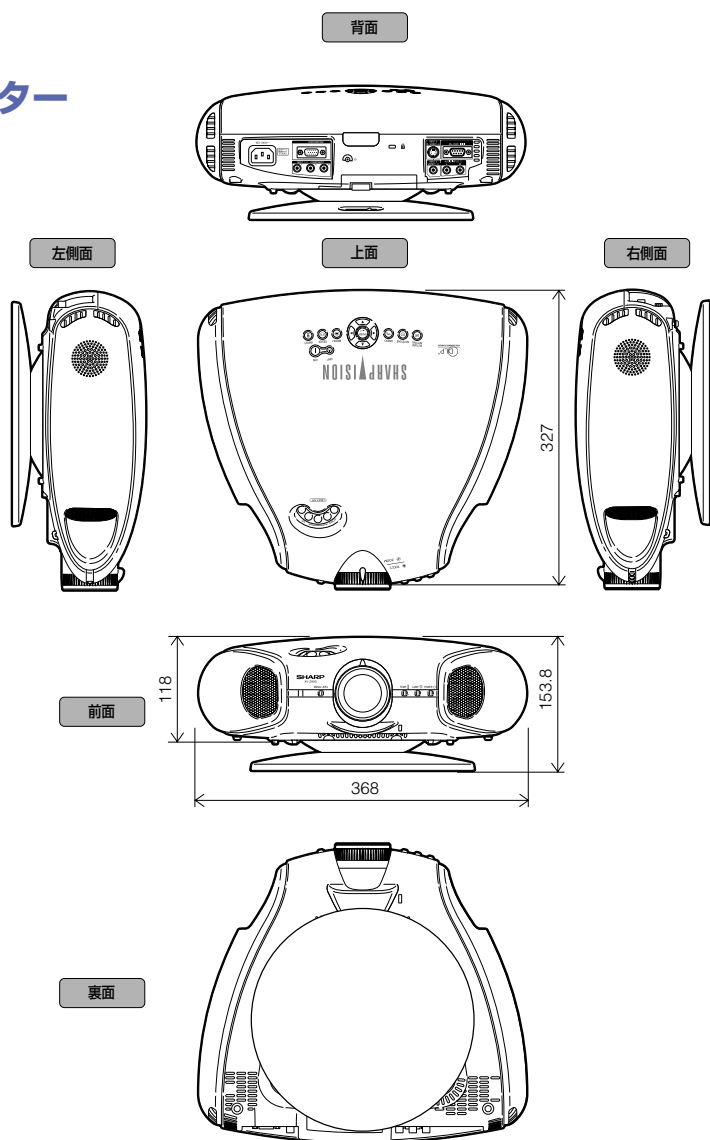
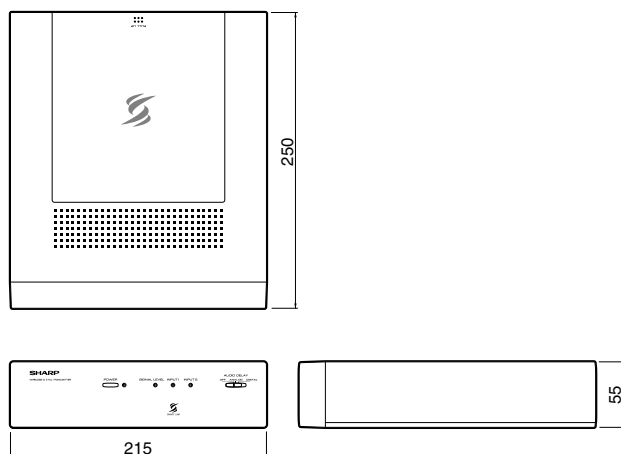
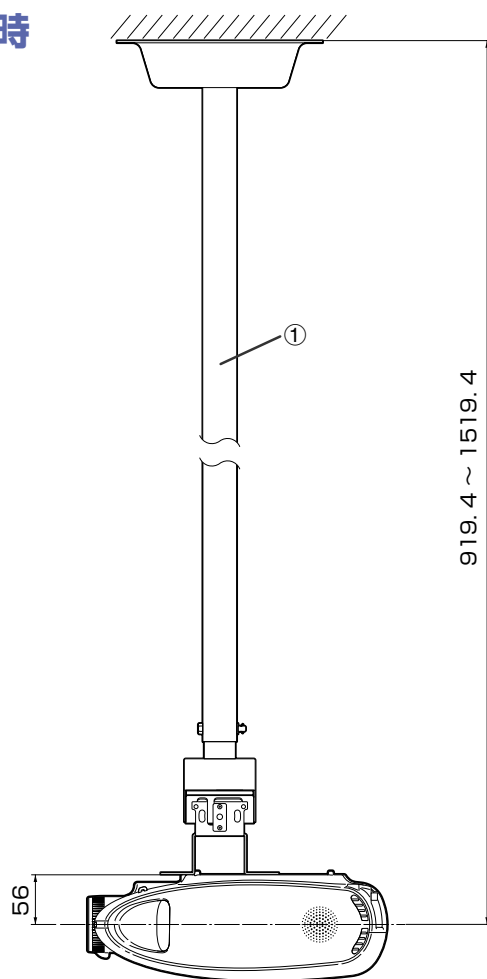
368

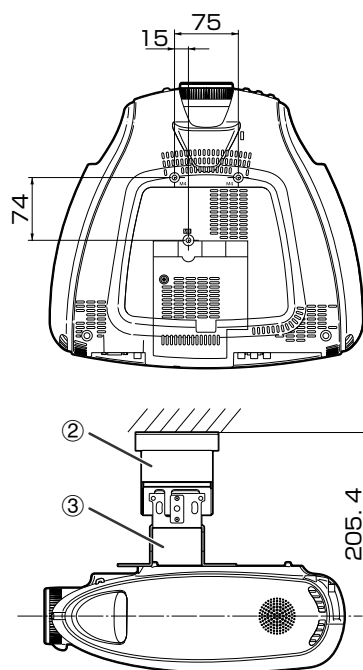
裏面

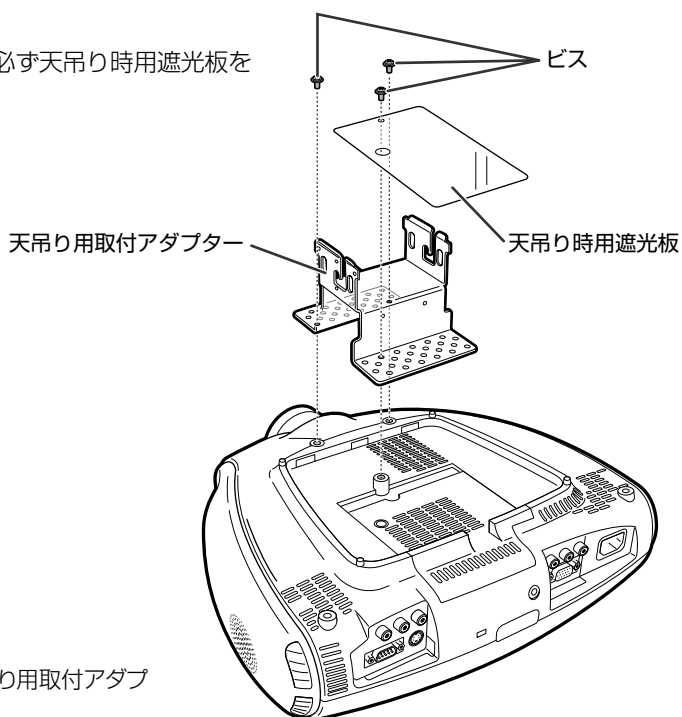
■ワイヤレス送信ユニット

250

55

215

単位：mm

■天吊り時

	品名	型名
①	高天井用取付けユニット	AN-TK201
②	低天井用取付ユけニット	AN-TK202
③	取付けアダプター	AN-60KT

天吊り時用遮光板の取り付け方

プロジェクターを天吊り設置するときは必ず天吊り時用遮光板を取り付けてください。

- 天吊り時用遮光板を上の図のように天吊り用取付アダプターの上にのせ、ネジでしめつけます。

用語集

RS-232C
コンピュータからプロジェクターを制御するときに使用する端子です。

色温度
プロジェクターに入力された映像のタイプに合わせて、色温度を調節する機能です。自然な肌色を表現したいときは、色温度を下げて、温かさ、赤っぽさを強調し、より明るい画像にしたいときは、色温度を上げて、冷たさ、青っぽさを強調します。

ガンマ補正
映像の違いや、部屋の明るさの違いにより映像が見にくい場合、映像の暗い部分をより明るくして映像を見やすくする機能です。

キーストーン補正
プロジェクターの映像を投映したとき、台形に歪んだ映像をデジタル修正するための機能です。

クロック調整
コンピュータ入力時、画面の縦方向に出る帯状のノイズを低減するための調整です。

字幕調整
映画など字幕の付いた映像を投映したとき、スクリーンから字幕がはみ出したときなど、スクリーン内に納まるように縦方向の圧縮率を調整することができる機能です。

自動同期調整
コンピュータの画像を最良な状態で投映する機能です。

スクイーズ
4：3の画面を均一に左右に引き伸ばして、ワイド画面で表示するモードです。

ズーム
4：3レターボックスの映像を投映したとき、上下の黒帯をカットし、ワイド画面で表示するモードです。

縦横比
映像の横・縦の比率です。コンピュータやビデオにおける通常の縦横比は4：3です。縦横比が16：9/21：9という横幅の広いワイド映像もあります。アスペクト比と呼ばれる場合もあります。

デジタルシフト
16：9ワイド画面やシネマなど上下が黒くなる横長の画像を投映するときは、画像全体を上下させて見やすくすることができます。

台形補正
プロジェクターの映像を投映したとき、台形に歪んだ映像をデジタル修正するための機能です。

無信号時画面
信号が入力されていないときに投映される初期設定映像です。

レンズシフト
スクリーンの位置に合わせ、投映角度が調整できます。

ワイド
4：3の画面を、画面の中心部付近の縦横比を維持しながら、画面の左右だけを引き伸ばして、ワイド画面で表示するモードです。

索引

記号英数

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

● 製品についてのお問い合わせは‥		
お客様相談センター	東日本相談室 TEL **043-297-4649** FAX **043-299-8280**	
	西日本相談室 TEL **06-6621-4649** FAX **06-6792-5993**	
《受付時間》 月曜～土曜：午前9時～午後6時 日曜・祝日：午前10時～午後5時（年末年始を除く）		

● 修理のご相談は‥	**84**ページ記載の『お客様ご相談窓口のご案内』をご参照ください。
● シャープホームページ	**http://www.sharp.co.jp/**

シャープ株式会社

本　　　　　社　　〒545-8522　　大阪市阿倍野区長池町22番22号
AVシステム事業本部　〒329-2193　　栃木県矢板市早川町174番地

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

アメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用しています。

TINS-A288WJZZ

02P09-JWM